埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第294集

大里郡川本町

如意南遺跡 II

本畠揚水機場建設用地内
埋蔵文化財発掘調査報告

2004

埼　玉　県
財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

発刊に寄せて

わが国を取り巻く社会情勢は、本格的な少子・高齢化の到来、高度情報化の進展、地球環境問題など、大きく変化しております。

本県では、このような状況を踏まえ、変化に的確に対応し、「日本一の安心・安全の県づくり」の実現に努めております。

農業におきましては、生活者主権の視点に立った食料・農業・農山村に関する迅速な取り組みを強化するとともに、豊かな「農」があってはじめて県民の健康とくらしが成り立つとの視点に立って、本県農業を更に振興してまいります。

そのため、地域の歴史文化や自然環境に配慮しながら、ほ場・農道・用排水施設などの整備に努めてまいります。

農地防災事業を実施している、熊谷市外2市4町1村の大里地区の農業用水は近年、都市化の影響による生活雑排水の混入に起因する水質悪化や地下水依存に伴う地盤沈下等用水機能の低下が顕著になっていました。

このため、用水路を改修することにより、水利施設の機能回復及び農業用水の水質改善を図り、地域の農業経営の安定に寄与しようと事業を進めているところです。

本事業地内には、古墳時代後期から平安時代前半の集落跡である如意南遺跡が確認され、これら貴重な埋蔵文化財を財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団に委託して、発掘調査を実施し、記録保存の措置をいたしました。

この報告書は、その調査結果をまとめたものです。県民の皆様方の教育及び文化向上のために御活用いただければ幸いです。

平成16年3月

埼玉県知事　上　田　清　司

序

埼玉県の中央部を流れる荒川は、流域の田畑を潤し、伏流水となって各地で湧き出すなど常に人々の生活と密接に関わりをもってきました。

また、毎年冬の到来とともに、川本町付近の荒川に飛来する百余羽のコハクチョウは、人々の目を楽しませています。

現在の川本町は、この荒川の恵みを享受し、首都圏における重要な食糧生産の基地として、また観賞用の花などの栽培も盛んに行われ、大いに発展が期待されています。

川本町西部の荒川には、農業用水の取水施設である六堰頭首工があります。昭和14年に建設され老朽化が進み、また周辺地域においては水質の悪化や湧水の枯渇などのさまざまな問題が生じてきました。こうした事態に対応するため、農林水産省の基幹土地改良施設と、地区内の水利施設の機能回復を目的とした「国営総合農地防災事業計画」に基づく六堰頭首工の改築工事が行われました。

埼玉県はこれに呼応し、「国営附帯農地防災事業」による、周辺整備事業の一環として本畠揚水機場の建設をすることになりました。

事業地内には周知の埋蔵文化財包蔵地として如意南遺跡が該当しており、その取扱いについては埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が、関係諸機関と慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず記録保存の措置を講じることとなりました。発掘調査は、埼玉県大里農林振興センターの委託を受け当事業団が実施しました。

今回の調査の結果、本畠揚水機場の建設予定地は竪穴住居跡や掘立柱建物跡などの埋蔵文化財が発見され、古墳時代後期から奈良・平安時代の大規模な集落跡の一部であることが明らかになり、竪穴住居跡からは土師器や須恵器などの土器類や土製品・金属製品が出土し、当地域の歴史を解明する上で貴重な発見となりました。

本書は、これらの発掘調査の成果をまとめたものであります。埋蔵文化財の保護・普及啓蒙の資料として、また学術研究の基礎資料として広く活用していただければ幸いです。

本書の刊行にあたり、発掘調査に関する諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課をはじめ、埼玉県農林部農村整備課、埼玉県大里農林振興センター、川本町教育委員会ならびに地元関係各位に厚くお礼申し上げます。

平成16年３月

財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理事長　桐川卓雄

例 言

1　本書は、埼玉県大里郡川本町大字畠山字如意451他に所在する如意南遺跡の発掘調査報告書である。

2　遺跡の略号と代表地番及び発掘調査に対する指示通知は以下のとおりである。
如意南遺跡第２次（ＮＹＩＳⅡ）
埼玉県大里郡川本町大字畠山451他
平成14年８月２日付け教文第２－37号

3　発掘調査は、本畠揚水機場建設工事に伴う事前調査であり、埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が調整し、埼玉県大里農林振興センターの委託を受け、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4　本事業は、第Ⅰ章の組織により実施した。本事業の発掘調査については山本靖、岡本健一が担当し、平成14年７月22から平成14年９月30日まで実施した。整理・報告書作成事業は、山本禎が担当し、平成16年１月５日から平成16年３月24日まで実施した。

5　遺跡の基準点測量は、株式会社ジーアイエス関東に委託した。

6　写真は、発掘調査時の撮影を各担当者が行い、遺物の撮影は大屋道則が行った。

7　出土品の整理・図版の作成は、山本禎が行い、亀田直美の協力を得た。

8　本書の執筆は、山本が行い、Ⅰ－１を埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課が行った。

9　本書の編集は、山本が行った。

10　本書に掲載した資料は、平成16年度以降、埼玉県立埋蔵文化財センターが管理・保管する。

凡 例

1　遺跡全体におけるX・Yの数値は、国土標準平面直角座標第Ⅸ系（原点：北緯36度00分00秒、東経139度50分00秒）に基づく各座標値を示す。また、各挿図における方位は、全て座標北を示す。

2　遺跡におけるグリッドの設置は、国土標準平面直各座標第Ⅸ系に基づいて設置しており、10m×10mの方眼である。

3　グリッドの名称は、北西杭を基準として、東西方向は西から東へ1、2、3…、南北方向は北から南へA、B、C…と付けている。

（例　A－2グリッド）

4　本書の遺構の略号は以下のとおりである。

ＳＪ	竪穴住居跡	ＳＢ	掘立柱建物跡
ＳＫ	土坑	ＳＸ	性格不明遺構

5　本書の挿図の縮尺は、原則として以下のとおりである。

調査区全測図	1：200	1：800
竪穴住居跡		1：60
掘立柱建物跡		1：60
土坑		1：60
ピット		1：30
土器実測図・砥石		1：4
紡錘車		1：3
金属製品		1：2

6　須恵器は、断面を黒塗りしてあるが、酸化焔焼成となっているものは塗っていない。遺物の網は油煙を表す。

7　遺構図における水平数値は、海抜高度を示しており、単位はmである。

8　遺構図中のスクリーントーンは、焼土範囲（濃）と被熱焼土範囲（淡）を示す。

9　遺物観察表は次のとおりである。

・口径・器高・底径は、cmを単位とする。

・（　）内の数値は推定値である。

・胎土は肉眼で観察できるものを次のように示した。

A：石英　B：白色粒子　C：長石

D：角閃石　E：赤色粒子　F：黒色粒子

G：雲母　H：片岩　I：白色針状物質

J：砂粒　K：チャート　L：小礫

・焼成は、良好・普通・不良の3段階に分けた。

・残存率は、図示した器形の部分に対して%で表した。

10　土錘観察表は次のとおりである。

・長さ・径・孔径はcmを、重さはgを単位とし、径は最大径である。

・（　）は現存の長さ・径・重さを表す。

・胎土は以下のように分類した。

A：赤色粒子少量＋大粒砂粒＋小石·片岩

B：白色微粒子多量＋小石

C：白色微粒子多量＋赤色粒子

・分類は、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第241集『如意／如意南』のp161-162を参照されたい。

11　本書に掲載した地形図は、国土地理院発行の1/50,000地形図と川本町白地図1/2,500を使用した。

目　次

発刊に寄せて
序
例言
凡例
目次
Ⅰ　発掘調査の概要 …… 1
　1．発掘調査に至るまでの経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過 …… 2
　3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織 …… 3
Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 4
Ⅲ　遺跡の概要 …… 8
Ⅳ　遺構と遺物 …… 12
　1．住居跡 …… 12
　2．掘立柱建物跡 …… 37
　3．土坑 …… 39
　4．性格不明遺構 …… 50
　5．ピット …… 51
　6．グリッド出土・表採遺物 …… 54
Ⅴ　まとめ …… 57
写真図版

挿図目次

第1図　埼玉県の地形 …… 4
第2図　周辺の遺跡 …… 6
第3図　調査区周辺の地形 …… 9
第4図　如意南遺跡 …… 10
第5図　第2次調査区全測図 …… 11
第6図　第1号住居跡 …… 12
第7図　第1号住居跡出土遺物 …… 13
第8図　第2号住居跡 …… 14
第9図　第2号住居跡出土遺物 …… 15
第10図　第3号住居跡 …… 16
第11図　第4号住居跡 …… 16
第12図　第5号住居跡 …… 17
第13図　第5号住居跡出土遺物 …… 18
第14図　第6・7号住居跡（1）…… 21
第15図　第6・7号住居跡（2）…… 22
第16図　第6号住居跡出土遺物 …… 23
第17図　第5・6号住居跡出土遺物 …… 24
第18図　第7号住居跡出土遺物 …… 24
第19図　第6・7号住居跡出土遺物 …… 26
第20図　第5・6・7号住居跡出土遺物 …… 27
第21図　第8号住居跡 …… 28
第22図　第8号住居跡出土遺物 …… 29
第23図　第9号住居跡 …… 31
第24図　第9号住居跡出土遺物（1）…… 32
第25図　第9号住居跡出土遺物（2）…… 33
第26図　第9号住居跡出土遺物（3）…… 34
第27図　第10号住居跡 …… 36
第28図　第10号住居跡出土遺物 …… 36
第29図　第1号掘立柱建物跡 …… 37
第30図　第2・3号掘立柱建物跡 …… 38
第31図　第4号掘立柱建物跡 …… 38
第32図　第1・4号掘立柱建物跡出土遺物 …… 39
第33図　土坑（1）…… 41
第34図　土坑（2）…… 42
第35図　土坑（3）…… 44
第36図　土坑（4）…… 46
第37図　土坑（5）…… 47
第38図　土坑出土遺物 …… 48
第39図　第1号性格不明遺構 …… 50
第40図　第1号性格不明遺構出土遺物 …… 50
第41図　ピット（1）…… 52
第42図　ピット（2）…… 53
第43図　ピット出土遺物 …… 54
第44図　グリッド出土・表採遺物 …… 55

図 版 目 次

図版１　第２次調査区全景
図版２　第１号住居跡カマド
　　第１号住居跡
図版３　第２号住居跡カマド
　　第２号住居跡
図版４　第３号住居跡
　　第４号住居跡
図版５　第５号住居跡カマドＡ遺物出土状況
図版６　第５号住居跡カマドＡ
図版７　第５号住居跡カマドＢ
図版８　第５号住居跡貯蔵穴遺物出土状況
　　第６号住居跡カマドＡ遺物出土状況
図版９　第６号住居跡カマドＡ煙突部遺物出土状況
　　第６号住居跡カマドＡ
図版10　第６号住居跡カマドＡ・Ｂ
　　第７号住居跡カマド
図版11　第５・６・７号住居跡
図版12　第８号住居跡カマドＡ
　　第８号住居跡カマドＢ遺物出土状況
図版13　第８号住居跡カマドＢ
　　第８号住居跡
図版14　第９号住居跡
　　第９号住居跡カマド遺物出土状況
図版15　第９号住居跡カマド遺物出土状況
　　第10号住居跡
図版16　第１号掘立柱建物跡
　　第２・３号掘立柱建物跡
図版17　第４号掘立柱建物跡
　　第33号土坑
図版18　第５号住居跡出土遺物
　　第６号住居跡出土遺物
　　第６・７号住居跡出土遺物
　　第８号住居跡出土遺物
図版19　第８号住居跡出土遺物
　　第９号住居跡出土遺物
　　第５号住居跡出土遺物
図版20　第９号住居跡出土遺物
　　第５・６号住居跡出土金属製品
　　第６・７号住居跡出土金属製品
　　第７号住居跡出土金属製品
　　第８号住居跡出土金属製品
　　第９号住居跡出土金属製品

Ⅰ 発掘調査の概要

1．発掘調査に至るまでの経過

県北部荒川中流域に広がる大里地区は、首都圏に食糧を供給する生産基地として大きな発展が期待されている。しかし、荒川の河床低下のために洪水の危機が危惧され、また、水質悪化や湧水の枯渇などの問題が生じてきた。こうした事態を受けて農林水産省が主体となり、大里地区において六堰頭首工など基幹土地改良施設と地区内水利施設の機能回復などの「国営総合農地防災事業」が計画された。これに呼応して埼玉県と川本町でも、「附帯県営農地防災事業」により支線水路等の周辺整備を行うこととなった。

教育局生涯学習部文化財保護課では、この事業の推進に伴う埋蔵文化財の保護について、従前より関東農政局と事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

当事業にかかる埋蔵文化財包蔵地の取り扱いについては、関東農政局埼玉東部土地改良事務所長より、平成９年２月21日付け９埼東第72号で、埋蔵文化財の照会があった。

これに対して文化財保護課では確認調査を実施したうえで、平成９年３月５日付け教文第1625号で如意南遺跡の取り扱いについて次のように回答した。

１　埋蔵文化財の所在

工事予定地には以下の埋蔵文化財が所在する。

名 称(No.)	種 別	時 代	所 在 地
如意南遺跡 (No.67-181)	集落跡	古墳・奈良 平安	川本町大字本田 字如意470番地他

２　取扱い

上記の埋蔵文化財は、現状保存することが望ましいが、やむを得ず現状変更する場合は、事前に文化財保護法第57条３の規定に基づく埼玉県教育委員会教育長あての発掘通知を提出し、記録保存のための発掘調査を実施すること。

発掘調査については、財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施機関としてあたることとし、事業団・関係部局・文化財保護課の三者により、調査方法・期間・経費等についての協議が行われた。その結果、調査は平成14年８月１日から平成14年９月30日まで実施された。

なお、深谷土地改良事務所長から文化財保護法第57条３の規定による埋蔵文化財発掘通知が提出され、調査に先立ち、第57条１項の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出された。

発掘調査届に対する指示通知番号は、次のとおりである。

平成14年８月２日付け　教文２－37号

（文化財保護課）

2．発掘調査・報告書作成の経過

発掘調査

発掘調査は、平成14年７月22から平成14年９月30日まで実施した。調査面積は655㎡である。

平成14年７月から、事務手続きなどの準備を行い、8月から事務所としてユニットハウスの設置、器材運搬等の発掘準備と重機による表土除去作業を行った。

表土除去終了後、遺構確認を行い遺構精査に着手した。住居跡・掘立柱建物跡・土坑・ピット等を精査し、遺構の埋没状況や形態、遺物の出土状況を実測・写真撮影をして記録をした。

９月末に調査を終了し、安全対策のための埋め戻しと事務所の撤去を行った。

整理・報告書作成

整理・報告書作成は、平成16年１月５日から平成16年３月24日まで実施した。

１月から、出土遺物・図面・写真等の搬入作業後、遺物の水洗･註記および接合・復元を行った。これらと並行して、遺構実測図を整理し、第二原図の作成を行った。また、接合・復元が終了した遺物から実測を開始し、大型の遺物はスリースペースを使用して実測を行った。

第二原図作成終了後、遺構計測データー処理を行い、計測表等の作成をした。

遺構トレースにイラストレーターを使用するために、スキャンニングする図版を縮小した第二原図で版組を行った。スキャンニングした図をパソコン内に取り込み、イラストレーターによる遺構のトレースを行った。スクリーントーンや文字・諸記号もパソコン内で貼り込みを行い、遺構図を作成した。

遺物は遺物観察表作成のデータ処理を行い、遺物観察表を作成した。遺物で図示し切れない部分等は拓影を採り、実測図を製図ペンで墨入れしたものと組み合わせて版組し、パソコン内に取り込み、番号・スケールなどの貼り込みをして、遺物図版を作成した。また、復元した遺物は１点ごとに写真撮影を行った。

写真図版は、調査時に撮影した写真を選択し、遺物写真とともにパソコン内に取り込み、トリミング等を行い写真図版を作成した

原稿執筆終了後、遺構図・遺物図・遺物観察表及び写真図版とともに割付をおこなった。

図面類・写真類・遺物等を整理・分類し、収納作業を行った。報告書印刷の相見積もりをし、入稿後３回の校正を行い、３月下旬に報告書を刊行した。

3．発掘調査・整理・報告書刊行の組織

主体者　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

発掘調査（平成14年度）

理事長	桐川卓雄
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	大舘　健

管理部

管理幹	持田紀男
主任	江田和美
主任	長滝美智子
主任	福田昭美
主任	腰塚雄二
主任	菊池　久

調査部

調査部長	高橋一夫
調査部副部長	坂野和信
主席調査員（調査第二担当）	昼間孝志
主任調査員	山本　靖
主任調査員	岡本健一

整理作業（平成15年度）

理事長	桐川卓雄
副理事長	飯塚誠一郎
常務理事兼管理部長	中村英樹

管理部

管理部副部長	村田健二
主席	田中由夫
主任	江田和美
主任	長滝美智子
主任	福田昭美
主任	腰塚雄二
主任	菊池　久

調査部

調査部長	宮崎朝雄
調査部副部長	坂野和信
主席調査員（資料整理担当）	金子直行
統括調査員	山本　禎

Ⅱ 遺跡の立地と環境

如意南遺跡は、大里郡川本町大字畠山に所在し、町域のほぼ中央を東流する荒川右岸の河岸段丘上に立地する。標高は64mほどである。

如意南遺跡は、荒川に面した如意遺跡の南に位置しており、寄居町内を東流してきた荒川が北東方向に流れを変え、再び東流する変換点にある。

遺跡の北側は荒川に面した如意遺跡と隣接し、如意遺跡の東には川端遺跡が隣接している。南には中世に活躍した武士、畠山氏が居住したと伝えられる畠山館跡がある。

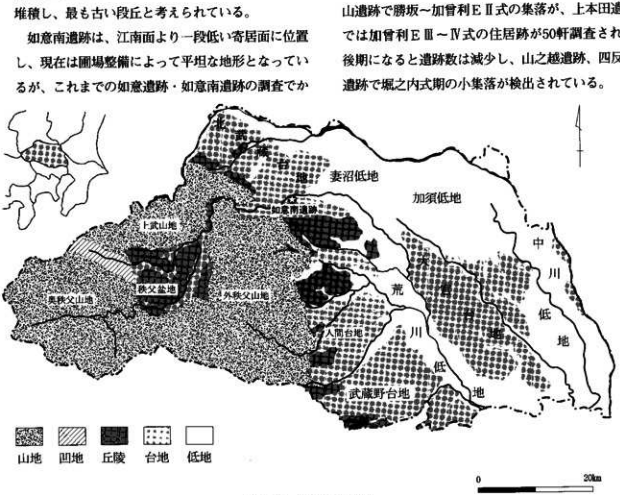
遺跡周辺の地形は、荒川による浸食作用と堆積作用によって形成された河岸段丘であり、最も高位にあるものは南岸では江南面（江南台地）、北岸では櫛引面（櫛引台地）と呼ばれ、関東ローム層が薄く堆積し、最も古い段丘と考えられている。

如意南遺跡は、江南面より一段低い寄居面に位置し、現在は圃場整備によって平坦な地形となっているが、これまでの如意遺跡・如意南遺跡の調査でかつては浅い谷があり、起伏にとんだ地形であったことが確認されている。

周辺の遺跡は、荒川右岸の河岸段丘上、江南台地上、左岸の櫛引台地上に分布し、櫛引台地上には遺跡が少ない傾向が見られる。

旧石器時代の遺跡は、江南台地の支谷に面した白草遺跡から北方系細石刃が出土している。

縄文時代の遺跡は、江南台地を中心に点在する。草創期では四反歩遺跡で槍先形尖頭器が出土し、上本田遺跡の西側から有舌尖頭器が採集された。櫛引台地の沢口遺跡では厚手の爪形文土器が出土している。早期は四反歩遺跡で住居跡７軒が調査され、前期では竹之花・円阿弥・権現堂遺跡で黒浜から諸磯ａ期にかけての小規模集落が分布する。中期は、舟山遺跡で勝坂～加曽利ＥⅡ式の集落が、上本田遺跡では加曽利ＥⅢ～Ⅳ式の住居跡が50軒調査された。後期になると遺跡数は減少し、山之越遺跡、四反歩遺跡で堀之内式期の小集落が検出されている。



第１図　埼玉県の地形

弥生時代の遺跡は、畠山館跡で前期末から中期初頭とされる壺形土器が単独で出土し、後期では焼谷・白草・荷鞍ヶ谷戸遺跡が調査されている。

古墳時代は、江南台地の円阿弥・白草遺跡で中期の集落が、椹現堂遺跡では後期の住居跡7軒が調査されている。河岸段丘上では、如意・川端遺跡で古墳時代後期の住居跡413軒、掘立柱建物跡5棟のほか、それらと一体のものと捉えられる如意南遺跡でも古墳時代後期の住居跡13軒が検出された。また、川端遺跡からは緑釉陶器や灰釉陶器が出土している。

古墳は、荒川の両岸に群集墳が造られている。左岸には上流から花園町小前田古墳群・黒田古墳群・見目古墳群が、櫛引台地をやや入ったところに長在家古墳群、熊谷市三ヶ尻古墳群があり、右岸河岸段丘上には小園古墳群・箱崎古墳群・塚原古墳群・鹿島古墳群がある。また、江南台地の縁辺には上大塚古墳群が造られている。

黒田古墳群は、30数基が確認されており前方後円墳1基と他は円墳である。埴輪を持ち、6世紀後半から7世紀前半頃の築造と考えられている。見目古墳群は、円墳2基が調査されている。ともに横穴式石室を有し、銅製八角稜鈴・刀装具・鉄鏃等が出土し、7世紀代の築造とされている。また円墳2基以外の古墳からは円筒・形象・器財埴輪が多量に出土している。長在家古墳群は、数基の古墳で形成されており、そのうち1基が調査され、横穴式石室を持つことが確認されている。遺物は出土しなかったが7世紀代のものと考えられている。

荒川右岸の箱崎古墳群は、6世紀前半から7世紀にかけて32基以上が築造され、全長32mの前方後円墳と大型円墳1基を含んでいる。3基が調査され横穴式石室が検出されており、玉類・耳環・刀子・埴輪などが出土している。塚原古墳群は、前方後円墳の蛤塚古墳を含む円墳数十基が知られていたが、消滅し現存しない。鹿島古墳群は、県指定史跡で80基以上の円墳でなる。河原石積みの胴張形石室を特徴とする6世紀後半から7世紀代の築造である。また近年、埴輪の存在が確認された。

江南台地縁辺部に立地する上大塚古墳群は、6基が確認されていた。清水山古墳は、11基以上の円墳で、詳細は不明であるが埴輪が出土しており、6世紀前半以降の築造とされている。

奈良・平安時代は、如意南遺跡など立地する荒川右岸は、男衾郡に属していたと考えられる。『和名抄』によると、男衾郡は八郷からなる中郡とされている。郡の領域については諸説あり、川本町・寄居町の荒川右岸、江南町・小川町・嵐山町の一部を含むとされる。

この時期の遺跡は、荒川沿いでは古墳時代から継続して営まれることが多い。如意南遺跡をはじめ、隣接する如意遺跡・川端遺跡では住居跡148軒・掘立柱建物跡14棟が検出された。そのほかには、鹿島遺跡、鹿島平方裏遺跡などがあり、鹿島古墳群と重複し、江南町新田裏遺跡を含めると、東西3km、南北1kmの細長い範囲に広がる集落遺跡である。

江南台地では、竹之花遺跡、白草遺跡、円阿弥遺跡、四反歩遺跡の集落や、8世紀前半の瓦が出土した荷鞍ヶ谷戸遺跡、小金銅仏が出土した諦光寺廃寺がある。百済木遺跡では、8世紀初頭に柵列で区画された竪穴住居跡と掘立柱建物跡で構成された建物群が2箇所で確認された。青銅製帯金具、銅鈴、墨書土器などが出土し、豪族の居宅と推定されている。また、百済木遺跡の南東の江南町に寺内廃寺がある。寺内廃寺は、南から中門・金堂・講堂と南北に直線的に配置され、金堂の東隣に塔がたてられ、回廊が巡るという本格的な伽藍配置を有した寺院跡である。寺地内にある集落からは「石井寺」・「花寺」・「東院」等の墨書土器が出土している。寺の創建は8世紀前半とされ、9世紀前半に再建され、10世紀末には廃絶したと考えられている。

寺内廃寺付近は、式内社の出雲伊波比神社を含む地域で、他に塩西遺跡・岩比田遺跡などがある。岩比田遺跡からは円面硯が出土している。

如意南遺跡西方の荒川上流域に目を移すと寄居町

1 如意南遺跡　2 如意遺跡　3 川端遺跡　4 畠山館跡　5 本田館跡　6 上本田遺跡
7 鹿島中世墳墓　8 新田裏遺跡　9 平方裏遺跡　10 鹿島平方遺跡　11 鹿島遺跡　12 山之越遺跡
13 舟山遺跡　14 竹之花遺跡　15 白草遺跡　16 円阿弥遺跡　17 権現堂遺跡　18 焼谷遺跡
19 荷鞍ヶ谷戸遺跡　20 四反歩遺跡　21 百済木遺跡　22 権現塚遺跡　23 犬神谷窯跡　24 西遺跡
25 桜山遺跡　26 岩比田遺跡　27 塩西遺跡　28 桜沢窯跡　29 露梨子遺跡　30 東伴場地遺跡
31 庚申塚遺跡　32 台耕地遺跡　33 赤浜犬神沢　34 薬師入遺跡　35 大杉遺跡　36 東原遺跡
37 沢口遺跡　38 亥ノ堀遺跡　39 大門遺跡

第2図　周辺の遺跡

A 箭崎古墳群　B 塚原古墳群　C 鹿島古墳群
D 上大塚古墳群　E 清水山古墳群　F 黒田古墳群
G 見日古墳群　H 長在家古墳群　I 三ヶ尻古墳群
J 小前田古墳群　K 小園古墳群　L 伊勢原古墳群
M 赤浜古墳群　N 諦光寺廃寺　O 寺内廃寺
P・Q 出雲伊波比神社　R小被神社

内に庚申塚遺跡・薬師入遺跡・東伴場地遺跡などがある。東伴場地遺跡からは、基壇状遺構と8世紀前半の複弁八葉蓮華文軒丸瓦をはじめ瓦が多数出土している。複弁八葉蓮華文軒丸瓦は、岡部町岡廃寺・熊谷市西別府廃寺などの郡家推定地に隣接する寺院に供給されていることが知られており、東伴場地遺跡は、郡家あるいは隣接した寺院にかかわる遺跡である可能性がある。また、この地区には小被神社があり、男衾郡に3社あったとされる式内社のひとつに比定されている。

中世には、如意南遺跡付近は、畠山重忠の本拠地と伝えられ、如意南遺跡の南約300mに畠山館跡が、川端遺跡内には重忠と所縁のある万福寺・井椋神社がある。川端遺跡からは、中世と考えられる柱穴群が検出され、青磁片・古銭などが出土した。

畠山館跡の南東1.5kmには重忠家臣の本田親常のものと伝えられる本田館跡があり、百済木遺跡では14～15世紀の寺院跡が発掘され、古名に残る万願寺と推定されている。

如意南遺跡の南西約2kmの寄居町赤浜地区には、伝鎌倉街道上道があり、また寄居町赤浜天神沢遺跡で、側溝と硬化面を有する道路遺構が検出され、鎌倉街道上道と推定されている。

(岩瀬譲ほか　2003　『如意遺跡Ⅳ』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第285集　転載一部加除等)

Ⅲ 遺跡の概要

如意南遺跡は、川本町の荒川右岸の河岸段丘上に位置し、遺跡周辺は近年の圃場整備により平坦になっているが、埋没谷が数ヶ所で確認されており、旧地形は起伏に富んだ地形であることが明らかになっている。

如意南遺跡の発掘調査は六堰頭首工につながる農道関係として、平成10年6月から9月にかけて3,000㎡を実施し、埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第241集『如意／如意南』に報告されている。如意南遺跡は、如意遺跡の南にあるため如意南遺跡となっているが、これまでの如意遺跡・如意南遺跡の発掘調査の結果、如意遺跡と如意南遺跡は一体のものであることが判明した。住居跡は川沿いに密集するが、川沿いほど密集はしていないが畠山館跡の北側に及ぶ範囲まで集落は広がっている。

如意遺跡で検出された遺構は、古墳時代後期の竪穴住居跡391軒、掘立柱建物跡5棟、奈良時代の竪穴住居跡24軒、掘立柱建物跡7棟、平安時代の竪穴住居跡86軒、掘立柱建物跡8棟、須恵器窯1基等である。

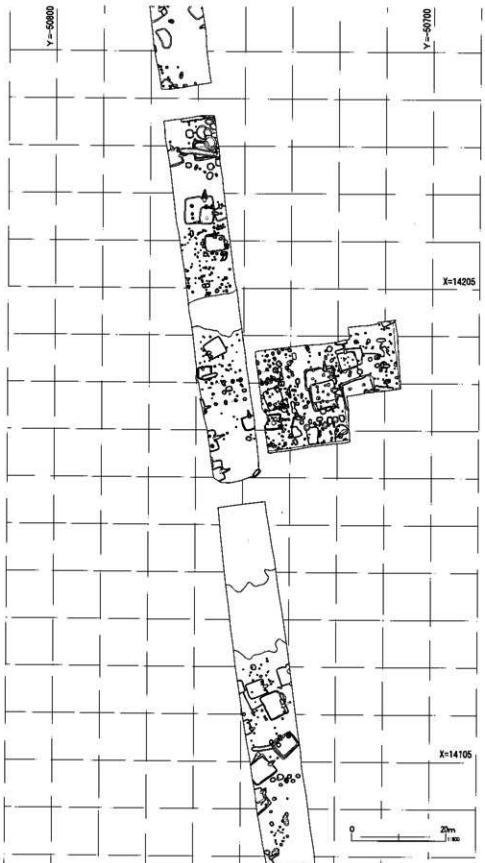
如意遺跡の東に隣接する川端遺跡では、川本町による3回の調査により、古墳時代後期の竪穴住居跡11軒、奈良時代8軒、平安時代5軒、掘立柱建物跡3棟が検出され、1棟の掘立柱建物跡4箇所の柱穴から9世紀に位置付けられる緑釉陶器が出土している。その他に埼玉県埋蔵文化財調査事業団の調査で古墳時代後期の竪穴住居跡12基が検出されている。

如意南遺跡では、これまでの調査で古墳時代後期の竪穴住居跡13軒、奈良時代6軒、平安時代24軒、掘立柱建物跡1棟が検出されている。今回の調査地区の隣接地では、西側一面廂の2間×2間の掘立柱建物跡1棟、住居跡6軒が調査され、すぐ北側と南側には埋没谷が確認されており、埋没谷間の約30m幅の間に占地をしている。

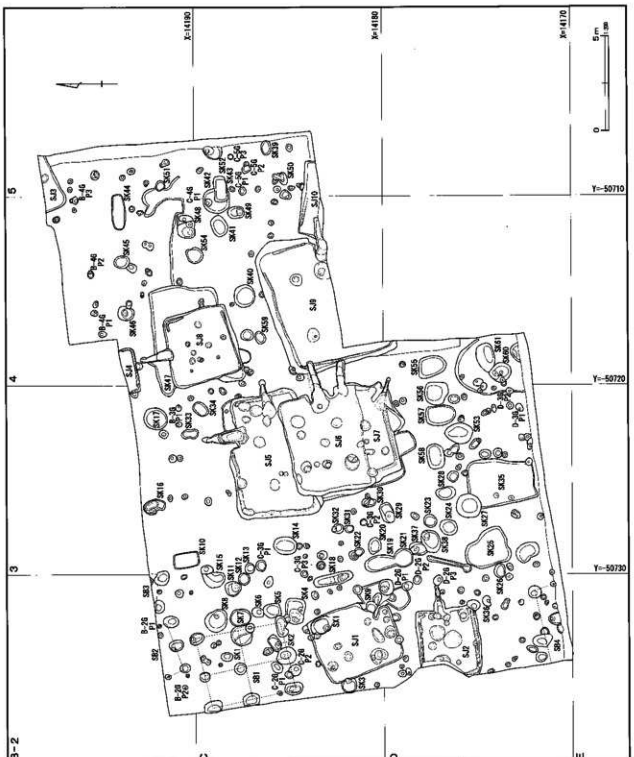
今回の調査では、竪穴住居跡が10軒、掘立柱建物跡4棟、土坑60基のほかピット多数が検出された。住居跡は古墳時代が1軒、奈良時代1軒、平安時代8軒、掘立柱建物跡は平安時代とみられ、土坑は22基が奈良・平安時代であるがほかは不詳である。

出土遺物は、土師器坏・甕・台付甕、須恵器坏・埦・高台付埦・高台付皿・瓶・甕等の他に土製紡錘車、石製品は砥石・紡錘車の他縄文時代の打製石斧、鉄製品では刀子・鎌・鑿・曲刃鎌などが出土した。

第３図　調査区周辺の地形



第4図　如意南遺跡



第５図　第２次調査区全測図

Ⅳ 遺構と遺物

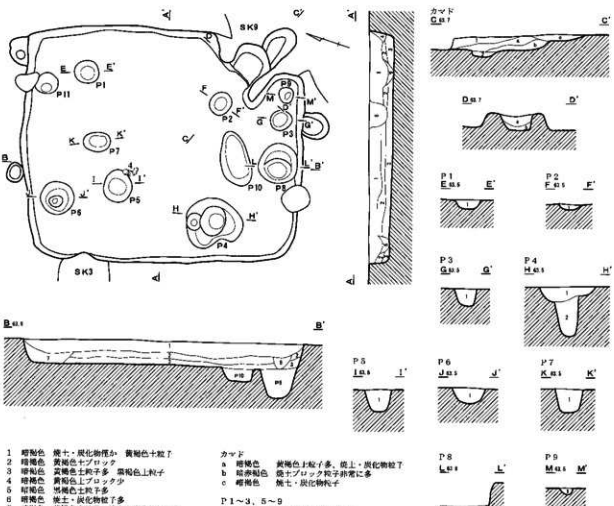
1．住居跡

第１号住居跡（第６・７図）

Ｃ・Ｄ－２グリッドに位置する。西壁一部は第３号土坑と南東隅は第９号土壙と重複し、両土坑に切られている。規模は、主軸長3.76ｍ×4.52ｍ、深さ40cm程を測り、平面は長方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－70°－Ｅを指す。

カマドは、南東隅に設けられている。燃焼部は、150cm×62cm、床面とほぼ同じ高さである。煙道部は、燃焼部と10cm程の段差をもって、長さ58cm×幅43cmが確認できた。主軸方位は、Ｎ－118°－Ｅを指す。

遺物は、土師器坏・甕、土錘が出土した。



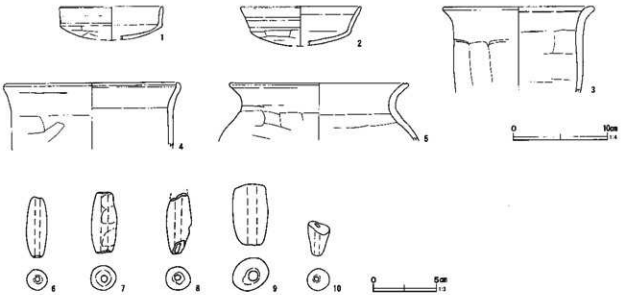
1　暗褐色　焼土・炭化物微少　黄褐色土粒子
2　暗褐色　黄褐色土ブロック
3　暗褐色　黄褐色土粒子多　黒褐色土粒子
4　暗褐色　黄褐色土ブロック少
5　暗褐色　黄褐色土粒子多
6　暗褐色　焼土・炭化物粒子多
7　暗褐色　黄褐色土粒子・焼土・炭化物粒子小
8　暗褐色　黄褐色土ブロック・焼土・炭化物粒子多
9　暗褐色　黄褐色土粒子多

カマド
a　暗褐色　黄褐色土粒子多、焼土・炭化物粒子
b　暗赤褐色　焼土ブロック粒子非常に多
c　暗褐色　焼土・炭化物粒子

Ｐ１～３、５～９
1　暗褐色　黄褐色土粒子・焼土粒子

Ｐ４
1　暗褐色　黄褐色土粒子・焼土粒子
2　暗褐色　ローム ブロック多

第６図　第１号住居跡



第７図　第１号住居跡出土遺物

第１号住居跡出土遺物観察表（第７図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.8)	(3.5)		ＢＥ	普通	にぶい橙	40	覆土	底部外面ヘラ削り
2	土師坏	(12.5)	(3.7)		ＢＤＥ	普通	にぶい赤褐	25	覆土	
3	土師甕	(15.7)	(9.0)		ＡＢＪＬ	普通	にぶい橙	20	覆土	外面１方向ヘラ削り　内面横ナデ
4	土師甕	(18.0)			ＢＤＪＬ	不良	橙	45	床	器壁磨耗　整形不明瞭
5	土師甕	(18.8)			ＡＥ	良好	にぶい黄橙	30	覆土	口縁部・内面胴部横ナデ　胴部外面ヘラ削り

第１号住居跡出土土錘観察表（第７図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
6	4.70	1.65	0.45	12.1	ＢａＶ	Ａ	橙	100	
7	4.80	2.03	0.54	18.8	ＢｂＶ	Ｃ	橙	100	
8	(4.80)	1.89	0.50	(13.0)	ＣａＶ	Ｃ	暗褐	90	
9	(4.80)	2.85	0.78	(38.5)	ＥａＶ	Ｃ	にぶい黄橙	95	
10	(2.70)	1.75	0.38	(5.7)		Ａ	橙	35	

第２号住居跡（第８・９図）

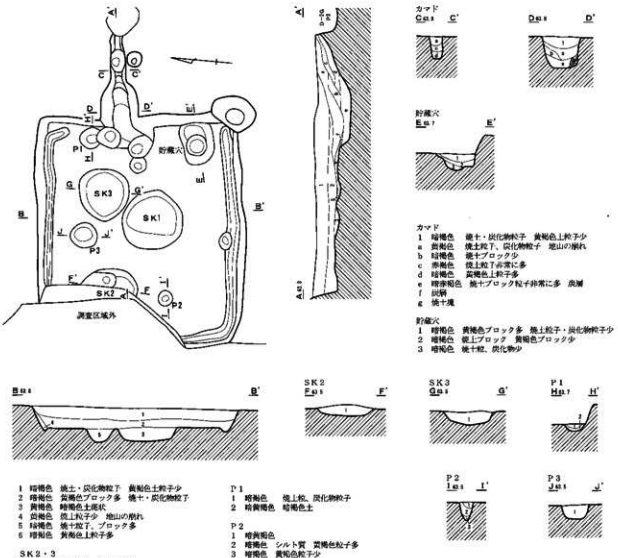
Ｄ－２グリッドに位置する。北壁の一部と西壁のほとんどは調査区域外である。カマドの先端及び南東隅はピットにより切られている。規模は、主軸長3.71ｍ×3.33ｍ、深さ30cm程を測り、平面は方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－85°－Ｅを指す。

貯蔵穴は、南東隅の東壁際に設けられており、65cm×49cmの楕円形を呈し、深さ27cmを測る。

壁溝は、東壁を除く３辺で確認でき、幅15～31cm、深さ３～16cmを測る。

カマドは、東壁のやや北寄りに設けられている。燃焼部は、115cm×60cm、床面から深さ22cmを測る。煙道部は緩やかに立ち上がり、長さ62cm×幅24cmが確認できた。

遺物は、上師器坏・甕、須恵器高台付坏の他、須恵器の甕片が出土した。６の礫は一部に油煙状の物が付着し、住居跡北西隅で出土した。



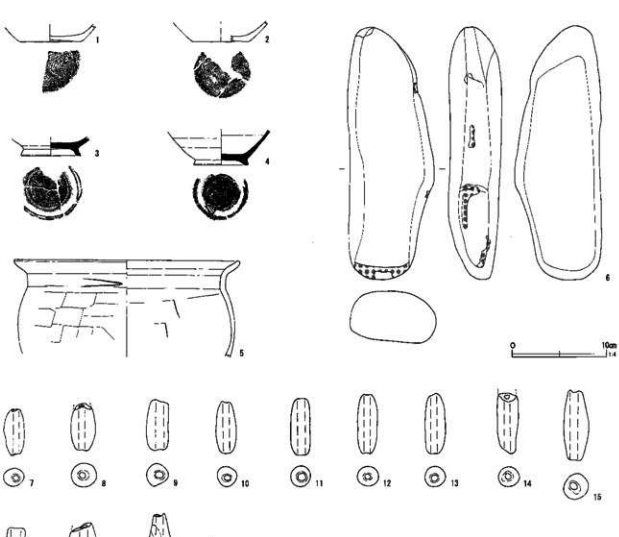
第８図　第２号住居跡

第２号住居跡出土遺物観察表（第９図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏			(6.3)	BEL	良好	黒褐	25	SK2	底部右回転糸切り
2	十師坏			(5.9)	E	良好	黒褐	60	覆土	底部右回転糸切り
3	須恵高台坏			(6.3)	BJ	普通	灰黄	80	カマド	
4	須恵高台坏			5.6	BCL	不良	灰黄褐	60	覆土	
5	十師甕	(23.6)			K	普通	橙	15	カマド	胴部外面←方向ヘラ削り　内面工具痕ナデ

第２号住居跡出土土錘観察表（第９図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
7	3.15	1.55	0.47	6.8	B a Ⅵ	A	橙	100	カマド
8	(3.70)	1.99	0.52	(13.6)	B b V	C	にぶい橙	90	南東
9	4.10	1.71	0.65	11.8	B'a V	C	にぶい黄褐	100	
10	4.15	1.62	0.53	10.7	B a V	A	灰黄褐	100	
11	4.45	1.58	0.65	11.2	B a V	A	灰黄褐	100	



第９図　第２号住居跡出土遺物

第２号住居跡出土土錘観察表（第９図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
12	4.15	1.64	0.46	12.2	B a Ⅴ	A	にぶい黄橙	100	
13	4.80	1.65	0.55	13.0	B a Ⅴ	C	にぶい橙	100	
14	(4.80)	1.68	0.56	(12.1)	B b Ⅳ	C	灰黄褐	75	
15	5.50	2.00	0.64	(20.0)	C b Ⅳ	B	にぶい黄褐	95	南西
16	6.50	1.89	0.75	22.9	B b Ⅲ	B	にぶい黄褐	100	
17	6.60	2.46	0.75	(31.7)	C a Ⅲ	C	褐灰	95	カマド
18	(7.30)	2.28	0.62	30.7	C a Ⅲ	B	灰黄褐	100	
19	(4.90)	2.30	0.59	(23.3)	B a Ⅳ	A	灰褐	75	南西
20	(4.20)	1.91	0.59	(14.3)	C a Ⅴ	C	にぶい黄褐	75	
21	(3.60)	1.63	0.47	(9.3)	B a Ⅴ	A	にぶい橙	70	
22	(4.00)	2.05	0.58	(12.4)	B a Ⅴ	C	明赤褐	65	
23	(3.75)	2.23	0.54	(14.8)	C a	B	褐灰	55	貯蔵穴

第３号住居跡（第10図）

Ｂ－４・５グリッドに位置する。北部と東部は調査区域外で一部の確認である。確認できた規模は、南壁2.85ｍ、西壁1.17ｍ、深さ35㎝程を測る。南壁を基準とする方位は、Ｎ－66°－Ｅを指す。

カマド等の施設は、確認できなかった。

遺物は、土師器片少量が出土した。

第４号住居跡（第11図）

Ｂ－３・４グリッドに位置する。北部ほとんどが調査区域外であり、一部の確認である。確認できた規模は、南壁2.38ｍ、東壁0.80ｍ、深さ35㎝程を測る。南壁を基準とした方位は、Ｎ－87°－Ｅを指す。

壁溝が３辺で確認でき、幅15㎝程、深さ２～５㎝を測る。

その他のカマド等の施設は、確認できなかった。

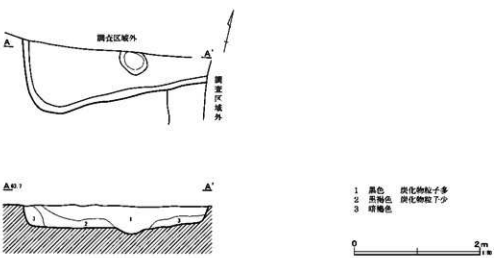
遺物も、出土しなかった。

第５号住居跡（第12・13図）

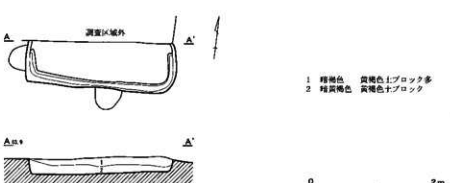
Ｃ－３グリッドに位置する。南壁が第６号住居跡に切られている。規模は、主軸長4.12ｍ×6.43ｍ、深さ25㎝程を測り、平面はやや台形を呈する。主軸方位は、Ｎ－５°－Ｗを指す。

貯蔵穴は、北東隅に設けられており、67㎝×50㎝の楕円形で、深さ17㎝を測る。須恵器瓶が横位の状態で出土した。

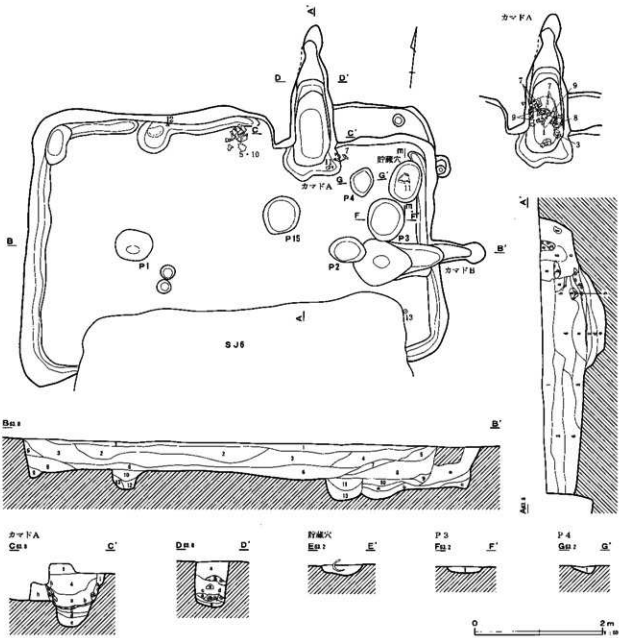
カマドは北壁と東壁に１基ずつ設けられ、カマドＢは、ピット２・３に切られていることと土層堆積



第10図　第３号住居跡



第11図　第４号住居跡



1　暗褐色　焼土粒子・砂・輝石　火山灰
2　黄褐色　黄褐色ローム質土主体、微
3　暗褐色　黄褐色ロームブロック　炭化物・焼土粒子
4　暗褐色
5　褐色　黄褐色ローム質土粒子やや多
6　暗褐色　黄褐色上粒子・少ブロックやや多　焼土・炭化物多
7　暗褐色　炭化物、炭化材多
8　黄褐色　ローム質土主体、暗褐色土
9　暗褐色　砂質土
10　暗黄褐色
11　黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子微
12　黒褐色　炭化物粒子・黄褐色土粒子微
13　暗褐色　黄褐色土ブロックやや多

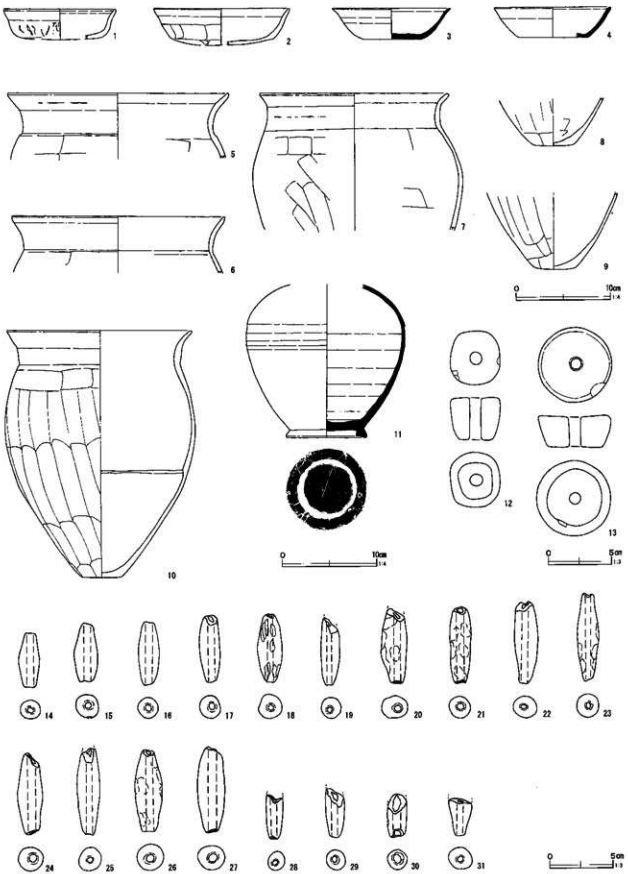
P3・4
1　黒褐色　焼土ブロック多

カマドA
a　暗黄褐色　炭化物粒子・焼土粒子微
b　被熱焼土
c　暗褐色　焼土粒子・ブロック多
d　灰層　暗褐色土・焼土ブロック
e　暗褐色　焼土ブロック・白色質土粒子多
f　黒褐色　焼土粒子
g　褐褐色　焼土ブロック・炭化物ブロック多
h　暗褐色　黄褐色土粒子多
i　暗黒灰褐色

カマドB
a　黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子少　黄褐色土粒子やや多
b　暗黄褐色　焼土粒子ブロック・炭化物粒子ブロック多
c　暗黄褐色　焼土・炭化物少

貯蔵穴
1　黒褐色　黄褐色土粒子・焼土粒子・炭化物粒子少

第12図　第5号住居跡



第13図　第５号住居跡出土遺物

状態から、カマドBが古くカマドAが新しいと考えられる。カマドAは、北壁のほぼ中央に設けられている。燃焼部は、160cm×70cm、床面から深さ35cmを測る。煙道部は、長さ85cm、幅50cmが確認でき、煙道部の被熱した天井が確認できた。カマドBは東壁のやや南寄りに設けられている。燃焼部は、110cm×70cm、床面から深さ20cmを測る。煙道部は、長さ75cm、幅35cmが確認でき、天井が遺存していた。

遺物は、カマド内及びカマド周辺が分布の中心で、土師器坏・甕、須恵器坏・瓶、土製紡錘車、凝灰岩製紡錘車が出土した。第6号住居跡との重複部分からは、須恵器皿、土師器甕、鉄製品、土錘が出土した。その他に、図示できないが須恵器の蓋の破片が出土した。12は凝灰岩製の紡錘車で、長径3.92～4.20cm、短径2.70～2.85cm、厚さ3.31cm、孔径0.85cm、重さ78.2gを量り、床面から出土した。13は土製紡錘車で、長径5.83cm、短径4.4cm、厚さ2.53cm、孔径0.85cm、重さ102.1gを量り、短径面と側面がヘラ整形されている。覆土中より出土した。

第5号住居跡出土遺物観察表（第13図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(11.7)	3.2		BD	普通	橙	40	カマド	外面一部整形不良
2	土師坏	14.2	4.0	10.8	BEF	普通	橙	90	貯蔵穴	体部下半外面～底部←方向ヘラ削り 口縁内面一部に煤
3	須恵坏	(12.5)	3.3	6.0	BH	不良	褐灰	80	カマド	底部右回転糸切り 口縁部は浅黄色
4	須恵坏	(12.2)	3.2	(7.3)	BI	良好	灰	30	覆土	底部回転糸切り 体部下半～底部酸化焔焼成
5	土師甕	(23.2)			ABEJ	普通	橙	20	床	胴部外面←方向ヘラ削り 内面横ナデ
6	土師甕	(22.4)			BEL	普通	橙	20	P3	
7	土師甕	19.8			BFJK	普通	にぶい橙	50	カマド	胴部外面←・↓方向ヘラ削り不明瞭
8	土師甕			4.0	E	普通	橙	50	カマド	外面↓、下端←方向ヘラ削り
9	土師甕			4.3	DJ	普通	灰黄褐	80	カマド	外面↑・→方向ヘラ削り
10	土師甕	(19.4)	(26.0)	4.0	E	普通	にぶい橙	70	床	胴部外面←・↓方向ヘラ削り 内面横ナデ
11	須恵瓶	8.3			BHL	良好	灰黄褐	80	貯蔵穴	胴部下半←方向ヘラ削り 底部高台内ヘラ記号 肩部自然釉

第5号住居跡出土土錘観察表（第13図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
14	4.30	1.63	0.55	10.8	Ca Ⅵ	A	黒褐	100	
15	4.70	1.87	0.50	(14.0)	Ca Ⅴ	A	にぶい黄橙	95	
16	4.95	1.64	0.60	12.0	Ba Ⅴ	A	浅黄橙	100	
17	5.35	1.79	0.55	(15.5)	Ca Ⅴ	C	灰黄褐	95	
18	5.35	1.94	0.43	(17.5)	Ca Ⅴ	C	にぶい赤褐	95	
19	(5.30)	1.65	0.40	(13.0)	Ca Ⅳ	A	にぶい橙	90	上層
20	(5.85)	1.98	0.52	(17.9)	Ca Ⅳ	C	橙	90	
21	6.00	1.72	0.57	16.0	Ba Ⅳ	A	褐	100	
22	(6.45)	1.90	0.47	(20.7)	Ca Ⅲ	A	にぶい橙	90	上層
23	6.90	1.81	0.45	(18.6)	Ca Ⅲ	B	にぶい黄橙	95	
24	(6.40)	1.98	0.62	20.6	Ca Ⅳ	C	にぶい橙	100	
25	(6.80)	1.88	0.46	(20.1)	Ba Ⅲ	A	橙	95	カマド
26	6.45	2.20	0.63	(26.3)	Ca Ⅳ	C	橙	95	カマド
27	6.75	2.19	0.70	(26.6)	Ba Ⅲ	C	橙	95	
28	(3.50)	1.52	0.45	(6.4)	Ba Ⅳ	A	橙	55	
29	(3.90)	1.60	0.46	(8.5)	Ba Ⅴ	A	橙	75	
30	(2.95)	1.56	0.74	(6.7)	Ba Ⅴ	A	にぶい赤褐	60	
31	(2.95)	(1.84)	0.44	(7.2)	Ca	A	にぶい橙	45	

第６号住居跡（第14～17図）

Ｃ－３グリッドを中心に位置する。第５号住居跡・第７号住居跡を切り、カマドが第９号住居跡を切っている。第７号住居跡の床面に貼床をし、構築されている。規模は、主軸長5.25ｍ×5.52ｍ、深さ70cm程を測り、平面はやや方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－85°－Ｅを指す。

カマドは、東壁に２基設けられている。カマドＡは、東壁のやや北寄りに設けられ、燃焼部は、145cm×95cm、床面から深さ35cmを測る。煙道部は、燃焼部から緩やかな傾斜で立ち上がり長さ82cm、幅45cmが確認でき、天井部が遺存していた。カマドＢは、東壁ほぼ中央に設けられている。燃焼部は、113cm×43cm、床面から深さ26cmを測る。煙道部は、緩やかな傾斜で立ち上がり、長さ84cm、幅45cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付埦・高台付皿、甕、土師器甕、凝灰岩製砥石、土製紡錘車、土錘の他に須恵器蓋片・甕片が出土した。第７号住居跡との重複部分からは、須恵器坏・高台付埦・高台付皿・瓶高台部、土師器甕、刀子、鉄鏃、土錘が出土した。９は凝灰岩製の砥石で、両端が欠損しているが、４面使用されている。カマドＡからの出土である。10も凝灰岩製の砥石である。２面のみの使用で他は自然面である。床面からの出土である。11は土製の紡錘車で、長径3.90cm、短径2.80cm、厚さ2.67cm、孔径0.70～0.75cm、重さは44.1ｇを測る。側面はヘラ整形されている。Ｐ１からの出土である。

第５・６号住居跡出土遺物（第17図）

鉄製品の３は鑿で、角柱状の棒状の一端が扁平に広がっている。身と刃部の境は明確な段差は持たない。

第７号住居跡（第14・15・18・19図）

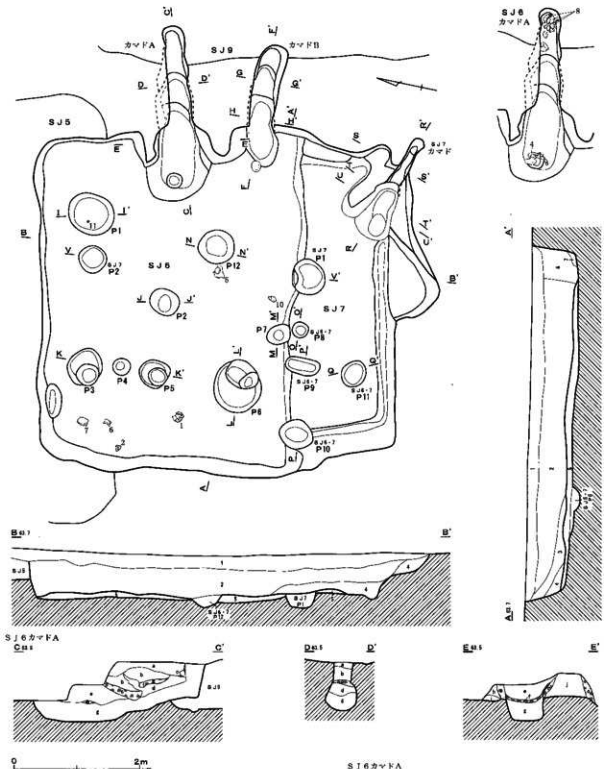
Ｃ・Ｄ－３グリッドに位置する。第６号住居跡に切られている。規模は、主軸長5.50ｍ×5.47ｍ、深さ60cm程を測り、平面は方形を呈すると推定される。主軸方位は、南壁を基準とするとＮ－80°－Ｅを指す。

カマドは、南東隅に設けられている。燃焼部は、110cm×80cm、床面から深さ８cmを測る。煙道部は、燃焼部から30cmほど段差をもち高くなり、長さ82cm、幅20cmが確認できた。

遺物は、須恵器坏・高台付埦、刀子、土錘の他に須恵器蓋片・甕片が出土した。鉄製品の４は刀子の茎とみられ、覆土中の出土である。

第６・７号住居跡出土遺物（第19図）

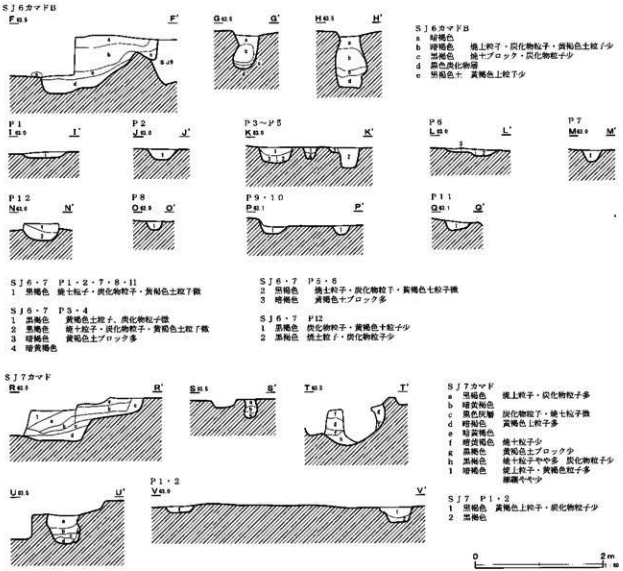
９・10は刀子で同一個体とみられる。９は切先を僅かに欠いた先端部で、10は茎部分である。11は鉄鏃で短頸関箆被腸抉両丸造三角形式で茎一部の残存であるが僅かに木質物が遺存する。



SJ6・7
1 暗褐色 地土粒子・砂・樹種 火山灰
2 暗褐色 地土粒子・炭粒色粒子多 樹種やや少
3 暗褐色 黄褐色土ブロックやや多
4 黄褐色 暗褐色土
5 黄褐色 暗褐色土 SJ6混土
6 黄褐色 暗褐色土ブロック
7 暗褐色 砂質土

SJ6カマドA
a 黒褐色
b 黄白褐色
c 焼熱地子
d 暗褐色 炭化物粒子・地土粒子少
e 暗褐色
f 焼土
g 黒褐色炭層 炭化物等主体、地土粒子ブロック多
h 暗黄褐色 砂質土
i 暗褐色 黄褐色土粒子多
j 暗黄褐色

第14図 第6・7号住居跡（1）



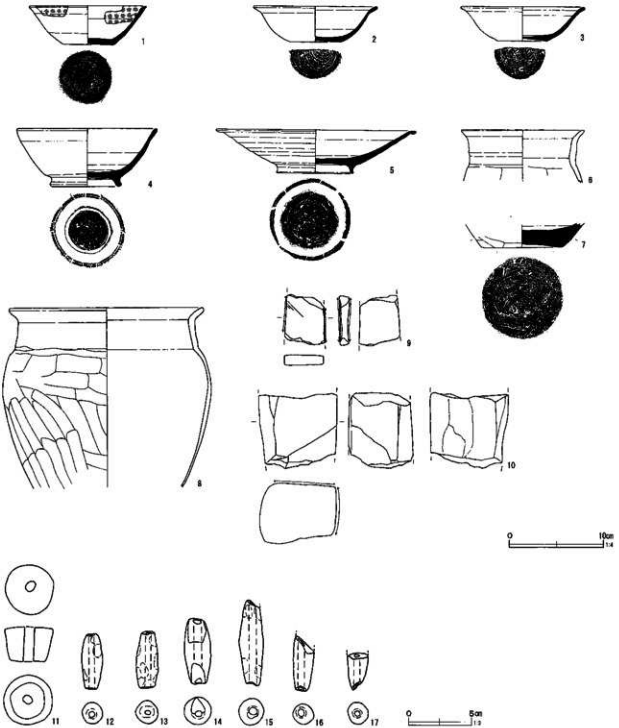
第15図 第6・7号住居跡（2）

第6号住居跡出土遺物観察表（第16図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.2	4.1	5.2	ＩＪ	不良	浅黄	90	覆土	底部右回転糸切り 口縁部外面一部、内面油煙付着
2	須恵坏	(12.9)	3.7	(5.2)	ＢＦＪ	普通	灰	40	覆土	底部右回転糸切り
3	須恵坏	(12.9)	3.6	(5.2)	ＢＦＬ	普通	灰	40	カマドＡ	底部右回転糸切り
4	須恵高台埦	14.7	6.2	7.2	ＢＦＬ	良好	灰黄	60	カマドＡ	
5	須恵高台Ⅲ	(21.2)	4.6	8.1	ＡＢＨＪ	不良	灰黄褐	70	床	
6	土師甕	(12.9)			ＢＧ	普通	橙	40	覆土	胴部外面削り 不明瞭 内面強いナデ
7	須恵甕			8.6	Ｌ	良好	灰白	底部	覆土	体部下端外面～底部周辺ヘラ削り
8	土師甕	20.2			ＤＥ	普通	にぶい橙	45	カマドＡ	胴部外面←・↓方向ヘラ削り 内面横ナデ

第6号住居跡出土土錘観察表（第16図）

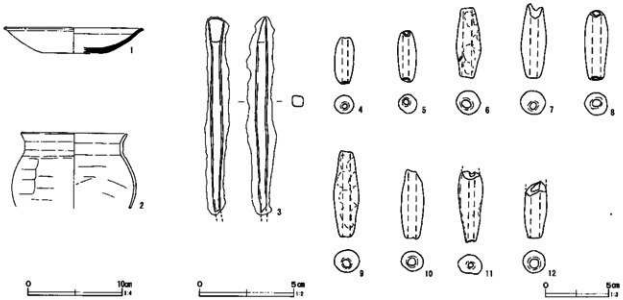
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
12	4.40	1.65	0.48	11.5	ＢｂＶ	Ｃ	にぶい黄褐	100	カマドＢ
13	4.50	1.81	0.45	15.3	ＢｂＶ	Ｃ	黒褐	100	カマドＢ



第16図　第６号住居跡出土遺物

第６号住居跡出土土錘観察表（第16図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
14	5.20	2.15	0.53	(20.7)	Ｂａ	Ｂ	明黄褐	80	
15	6.80	2.10	0.64	(22.6)	Ｃａ	Ｂ	灰黄褐	95	
16	(4.40)	1.70	0.58	(10.1)	ＢａＶ	Ａ	にぶい黄橙	65	
17	(2.90)	1.68	0.50	(5.9)	Ｃａ	Ｃ	にぶい橙	40	カマドＡ



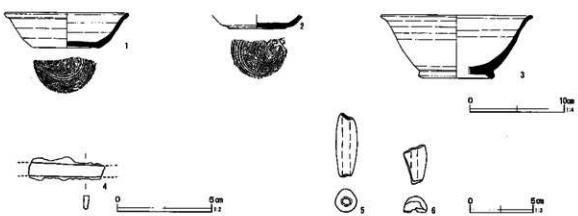
第17図　第５・６号住居跡出土遺物

第５・６号住居跡出土遺物観察表（第17図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵皿	(14.4)	2.7	(6.7)	B J	良好	灰	35	覆土	底部右回転糸切り　糸引き抜き痕
2	土師甕	(11.2)			D F	普通	にぶい褐	20	覆土	胴部外面←方向へラ削り

第５・６号住居跡出土土錘観察表（第17図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
4	3.70	1.49	0.45	7.7	B a Ⅵ	A	橙	100	
5	4.05	1.45	0.50	8.6	B a Ⅴ	C	橙	100	
6	5.55	1.93	0.78	16.8	C a Ⅳ	C	褐灰	100	
7	5.90	1.97	0.61	(18.1)	B a Ⅳ	A	浅黄橙	95	
8	5.55	1.86	0.70	17.7	B a Ⅳ	C	にぶい黄橙	100	
9	6.80	1.99	0.65	20.4	C a Ⅲ	A	浅黄橙	100	
10	5.40	1.80	0.65	(14.6)	B a Ⅴ	A	灰黄褐	95	
11	(5.60)	1.91	0.44	(14.6)	C a Ⅲ	A	にぶい橙	75	
12	(4.50)	1.75	0.72	(11.8)	B a Ⅴ	B	灰黄褐 黒褐	70	



第18図　第７号住居跡出土遺物

第7号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.6)	3.7	(6.9)	J	普通	灰黄	40	覆土	底部右回転糸切り
2	須恵坏			6.0	BJ	良好	灰	55	カマド	底部右回転糸切り
3	須恵高台埦	(15.6)	6.6	(7.2)	FJ	不良	褐灰	30	覆土	

第7号住居跡出土土錘観察表（第18図）

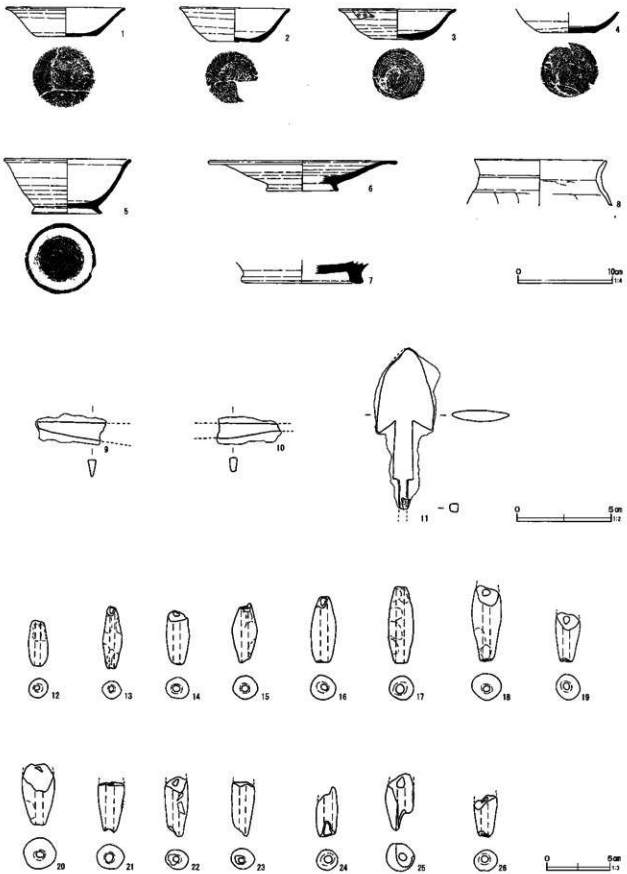
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
5	5.00	1.79	0.58	(13.0)	BbV	C	にぶい黄橙	95	
6	(3.10)	(1.72)	(0.50)	(5.2)		C	橙		カマド袖

第6・7号住居跡出土遺物観察表（第19図）

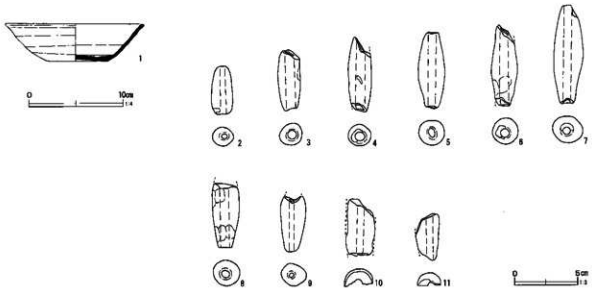
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	12.4	3.1	6.2	BFJ	不良	浅黄	80	覆土	底部右回転糸切り
2	須恵坏	11.5	3.6	5.2	BL	良好	灰	80	覆土	底部右回転糸切り
3	須恵坏	12.2	3.2	5.2	B	良好	灰	70	覆土	底部右回転糸切り
4	須恵坏			5.8	BJ	良好	灰	底部	覆土	底部右回転糸切り
5	須恵高台坏	(13.2)	5.8	7.4	BCJ	良好	灰	60	覆土	
6	須恵高台皿	(20.0)	3.2	(7.5)	BFJ	普通	灰黄	25	覆土	
7	須恵甕			(13.0)	FI	良好	灰	30	覆土	高台接合部内面強いナデ
8	土師甕	(13.8)			BDE	普通	橙	25	覆土	

第6・7号住居跡出土土錘観察表（第19図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
12	3.55	1.55	0.47	8.8	BaⅥ	C	にぶい黄橙	100	
13	4.90	1.55	0.43	(8.6)	CaV	C	にぶい橙	95	
14	(4.25)	1.79	0.58	(12.4)	BaV	C	黒褐	85	
15	4.65	1.98	0.52	(14.0)	CaV	C	にぶい黄橙	95	
16	5.15	2.01	0.59	(18.6)	BaV	C	にぶい黄橙	95	
17	6.00	1.95	0.70	20.2	CaⅣ	C	にぶい黄橙	100	P12
18	(5.95)	2.35	0.59	(24.7)	CaⅢ	C	にぶい橙	70	
19	(4.75)	2.62	0.59	(24.7)	CaⅣ	C	にぶい黄橙 黒褐	65	
20	(3.90)	2.14	0.75	(13.4)	BaⅣ	C	にぶい褐	55	
21	(4.65)	1.89	0.49	(13.4)	BaⅣ	C	にぶい黄橙	65	
22	(4.20)	1.78	0.50	(12.7)	BaⅣ	C	にぶい黄褐	60	
23	(3.95)	1.70	0.65	(8.3)	Ba	A	にぶい黄橙	85	
24	(4.50)	2.25	0.65	(14.3)		B	にぶい褐 橙		
25	(3.30)	(1.81)	0.54	(7.8)	Ba	A	にぶい橙	45	
26	(3.85)	1.98	0.56	(12.3)	CaV	C	橙	60	



第19図　第６・７号住居跡出土遺物



第20図　第５・６・７号住居跡出土遺物

第５・６・７号住居跡出土遺物観察表（第20図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	14.3	4.0	6.2	ＦＪＬ	不良	灰白	65	覆土	底部右回転糸切り

第５・６・７号住居跡出土土錘観察表（第20図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
2	3.75	1.67	0.45	(10.0)	Ｂａ Ⅶ	A	にぶい黄橙	95	
3	4.70	1.83	0.71	13.4	Ｂａ Ⅴ	C	にぶい黄橙	100	
4	(5.80)	1.83	0.75	(15.7)	Ｂｂ Ⅳ	B	暗褐	85	
5	6.00	2.05	0.72	22.8	Ｃａ Ⅳ	C	灰黄褐	100	
6	(6.35)	2.07	0.71	(22.9)	Ｃａ Ⅳ	C	黄橙	90	
7	7.75	2.35	0.56	(32.8)	Ｃａ Ⅱ	C	にぶい黄橙	95	
8	(5.05)	2.11	0.69	(19.7)	Ｃａ Ⅲ	B	黒褐	75	
9	(4.38)	1.98	0.43	(14.7)	Ｂａ Ⅴ	A	橙	85	
10	(4.45)	(2.25)	(0.60)	(11.3)		B	灰黄褐		
11	(3.65)	(1.80)	(0.53)	(6.6)		C	橙		

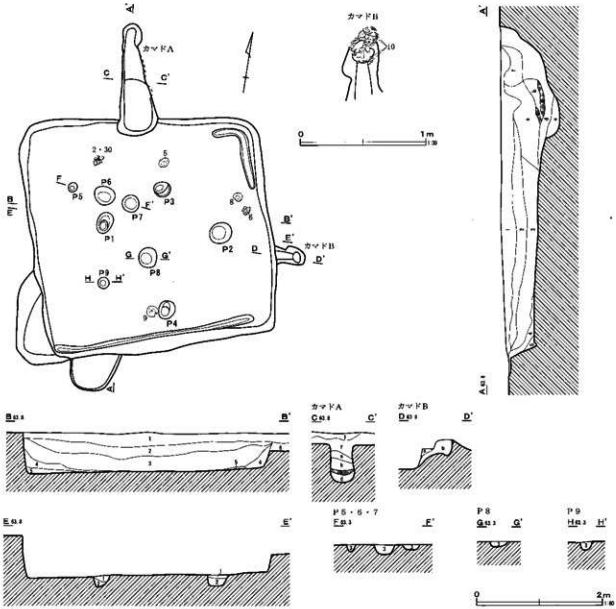
第８号住居跡（第21・22図）

Ｂ・Ｃ－４グリッドに位置する。規模は、上軸長3.68ｍ×3.80ｍ、深さ60cm程を測り、平面はやや歪んだ方形を呈する。主軸方位は、Ｎ－12°－Ｗを指す。

壁溝は、北東隅と南壁で確認でき、幅12～15cm、深さ２～５cmを測る。

カマドは２基確認され、東壁のカマドＢから北壁のカマドＡへの付け替えと見られる。カマドＡは、北壁のほぼ中央に設けられている。燃焼部は、90cm×58cm、床面から深さ20cmを測る。煙道部は急激に立ち上がり、長さ95cm、幅27cmが確認できた。カマドＢは、東壁の南よりに設けられている。燃焼部は確認できず、煙道部の一部が長さ46cm、幅18cmが確認でき、煙突部に土師器甕がみられた。

遺物は、土師器坏・甕、須恵器坏・高台付坏・高台付瓶・蓋、鉄製品、土錘の他、須恵器甕片多数が出土した。鉄製品の30は用途不明である。



1　黒色　焼土粒子・炭化物粒子・白色粒子少
2　黒色　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色ブロック少
3　暗褐色　焼土粒子・炭化物粒子少　黄褐色土ブロック多
4　黒褐色　黄褐色土粒子・炭化物粒子少
5　暗黄褐色　貼床層
6　暗褐色　黄褐色土ブロック多

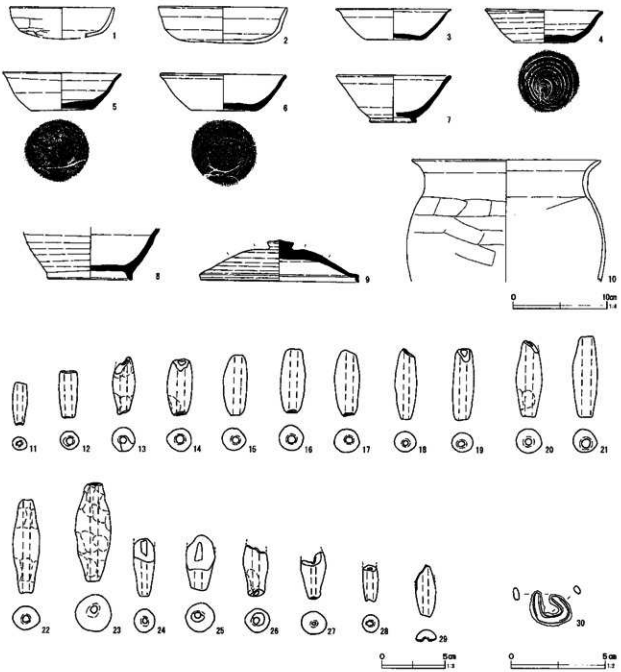
カマドA
a　暗黄褐色
b　暗褐色　黄褐色土ブロック・焼土ブロック少
c　焼土層
d　暗黄褐色　炭化物・焼土少
e　暗黄褐色　焼土ブロック多
f　暗褐色

カマドB
a　黒褐色　黄褐色土ブロック少
b　黒褐色　焼土粒子少

P1・2
1　暗褐色　黄褐色土粒子多
2　黒褐色

P5～9
3　暗褐色　黄褐色土粒子少

第21図　第8号住居跡



第22図　第８号住居跡出土遺物

第８号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.9)			B	普通	にぶい橙	20	覆土	口縁外面ヘラナデ
2	土師坏	13.4	3.8	(9.4)	BJ	普通	橙	60	覆土	底部手持ちヘラ削り
3	須恵坏	(12.1)	3.3	6.0	J	不良	灰白	40	覆土	
4	須恵坏	12.2	3.5	6.4	BFL	良好	灰	80	覆土	底部右回転糸切り
5	須恵坏	12.5	4.0	6.4	BCJL	不良	灰黄	90	覆上	底部右回転糸切り　器壁磨耗
6	須恵坏	13.2	3.8	6.8	BCEHI.	普通	オリーブ黒	80	覆土	底部右回転糸切り　体部下半～底部酸化焔焼成

第８号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
7	須恵高台坏	(11.9)	5.0	(4.8)	ＢＪＬ	良好	灰	30	覆土	
8	須恵瓶			8.8	ＢＦＨＪＬ	不良	灰白	80	覆土	
9	須恵蓋	16.6	4.4		ＢＩ	良好	灰	95	覆土	外面肩部右回転ヘラ削り
10	土師甕	(19.7)			ＪＫＬ	普通	橙	30	覆土	胴部外面←方向ヘラ削り

第８号住居跡出土土錘観察表（第22図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
11	(3.40)	1.16	0.43	(3.6)	Ｂａ	Ｃ	にぶい黄橙	80	
12	(3.75)	1.50	0.57	(8.1)	Ｂａ	Ｃ	にぶい黄橙	70	
13	(4.60)	1.94	0.55	(13.1)	ＣａＶ	Ｃ	褐灰	85	
14	(4.45)	2.01	0.65	(15.4)	ＢａＶ	Ｃ	にぶい褐	90	
15	4.80	1.88	0.54	15.7	ＢａＶ	Ｃ	にぶい黄褐	100	
16	5.05	1.98	0.60	19.4	ＢａＶ	Ｃ	橙	100	
17	5.25	2.00	0.58	18.7	ＢａＶ	Ｃ	にぶい黄橙	100	
18	(5.55)	1.75	0.49	(14.1)	ＢａⅣ	Ａ	橙	95	
19	5.70	1.69	0.58	(15.6)	ＢａⅣ	Ａ	にぶい褐	95	
20	6.00	2.05	0.60	(20.7)	ＣａⅣ	Ｃ	にぶい黄橙	95	
21	6.40	1.80	0.70	21.9	ＢａⅣ	Ｃ	褐灰	100	
22	7.40	2.10	0.58	25.0	ＣａⅡ	Ｃ	にぶい黄橙	100	
23	7.75	2.90	0.61	(50.9)	ＣａⅡ	Ｂ	浅黄橙	95	
24	(4.50)	1.85	0.48	(11.3)	ＣａⅣ	Ｂ	黒褐	60	
25	(4.35)	2.30	0.50	(13.9)		Ａ	黒褐	35	
26	(4.05)	1.98	0.58	(13.3)	ＣａＶ	Ａ	明褐	70	
27	(3.75)		0.30	(10.0)	ＣａＶ	Ｃ	橙	55	
28	(2.90)	1.37	0.55	(4.2)	ＢａⅥ	Ｃ	明赤褐	65	
29	(4.10)	(1.60)	(0.45)	(4.7)		Ｃ	黒褐	40	

第９号住居跡（第23～26図）

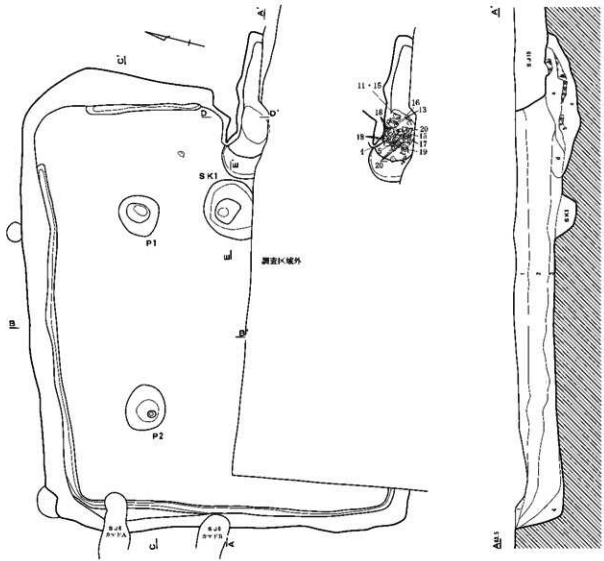
Ｃ－４グリッドに位置する。第６号住居跡のカマドＡ・Ｂに切られ、当住居跡のカマドの上部が第10号住居跡に切られている。南半がほとんど調査区域外になっているが、規模は、主軸長6.90ｍ×5.82ｍ、深さ60～65㎝程を測り、平面はやや歪んだ方形を呈するとみられる。主軸方位は、Ｎ－77°－Ｅを指す。

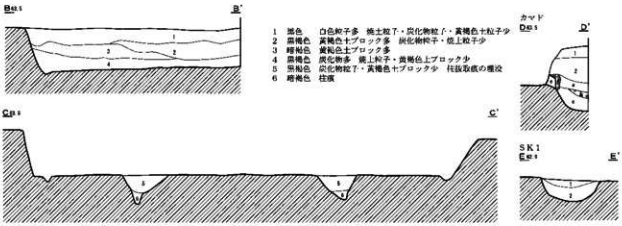
柱穴は、２本確認でき、Ｐ１は65㎝×65㎝、深さ37㎝、Ｐ２は65㎝×72㎝、深さ47㎝を測る。

壁溝は、北東隅を除き全周する。幅20～30㎝、深さ３～５㎝を測る。

カマドは、東壁のほぼ中央に設けられているとみられる。南側が調査区域外になっているが燃焼部は、115㎝×62㎝、床面から深さ45㎝を測る。煙道部は、カマド上部が第10号住居跡に切られ不明である。

遺物は、土師器坏・台付甕・甕・甑、須恵器坏・埦・高台付埦・蓋、土製紡錘車、刀子、曲刃鎌、土錘の他、須恵器甕片が出土した。24は土製紡錘車で長径6.98㎝、短径4.20㎝、厚さ3.05㎝、孔径1.09㎝、重さ101.5ｇを量る。鉄製品は68・69で、68は刀子で茎と刃部の境に両関を持ち、Ｐ３から出土した。69は曲刃鎌で、着柄部分はＬ字状に折り返しがされている。





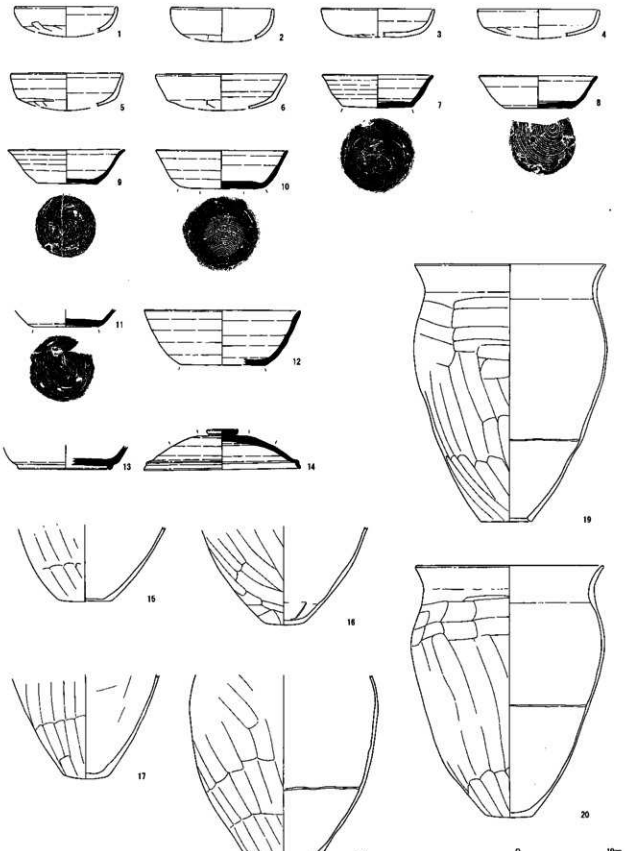
1　淡色　白色粒子多　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少
2　黒褐色　黄褐色土ブロック多　炭化物粒子・焼土粒子少
3　暗褐色　黄褐色土ブロック多
4　黒褐色　炭化物多　焼土粒子・黄褐色土ブロック少
5　黒褐色　炭化物粒子・黄褐色土ブロック少　柱抜取底の痕跡
6　暗褐色　住痕

カマド
a　明褐色　焼土ブロック多　炭化物粒子少
b　鉄錆褐色　焼土ブロック
c　暗褐色炭層　焼土ブロック・黄褐色土ブロック多　炭化物粒子多
d　明褐色　黄褐色土粒子多
e　暗黄褐色　焼土粒子微　袖
f　赤褐色　焼土

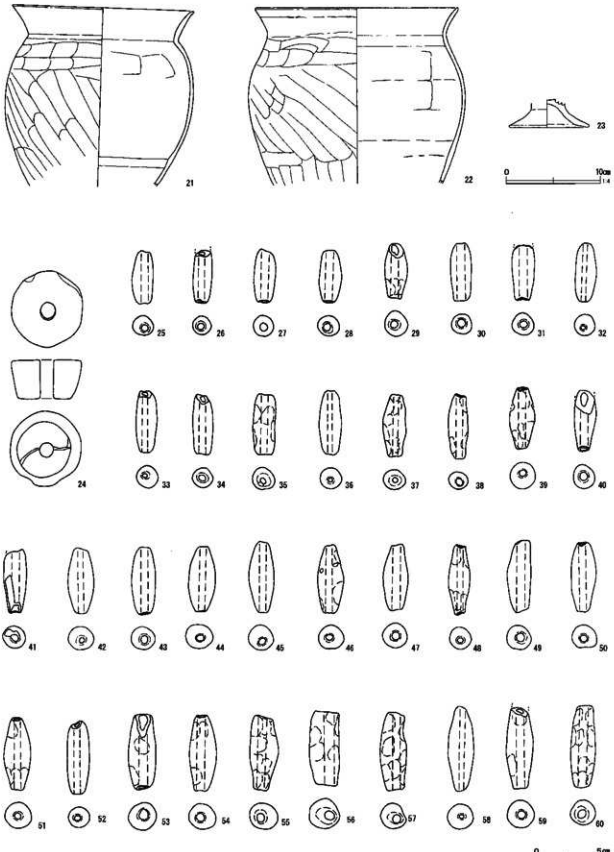
SK1
1　明褐色　黄褐色土粒子少　貼床
2　暗褐色　焼土粒子・ブロック・黄褐色土ブロック・カーボン粒子多

0　2m
1:80

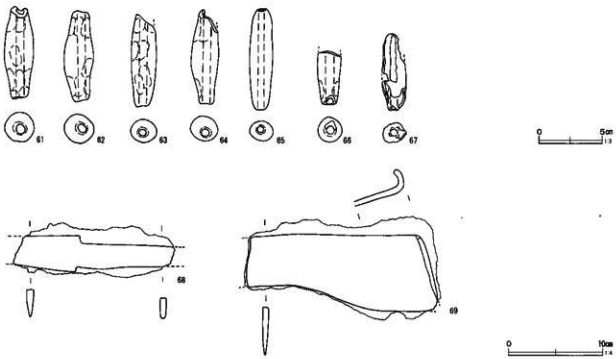
第23図　第9号住居跡



第24図　第９号住居跡出土遺物（１）



第25図　第９号住居跡出土遺物（２）



第26図　第９号住居跡出土遺物（３）

第９号住居跡出土遺物観察表（第24～26図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	土師坏	(10.7)			BGK	不良	橙	25	覆土	
2	土師坏	(10.7)			AB	普通	橙	20	覆土	
3	土師坏	(10.8)	3.0		AF	神通	橙	30	覆土	口縁部内外面横ナデ
4	土師坏	(12.8)			B	普通	明赤褐	20	カマド	口縁部内外面ナデ
5	土師坏	(11.8)			BG	普通	橙	20	カマド	体部内外面横ナデ
6	土師坏	(13.7)			ABD	普通	橙	20	覆土	口縁部内面～体部外面横ナデ
7	須恵坏	(11.6)	3.4	7.4	BFJ	良好	灰	60	覆土	底部全面左回転ヘラ削り
8	須恵坏	(12.3)	3.4	7.0	B	良好	灰	55	覆土	底部右回転糸切り　ヘラ起し痕　底部のみ酸化焔焼成
9	須恵坏	12.2	3.6	6.4	HJ	不良	灰黄	80	覆土	底部右回転糸切り
10	須恵坏	(13.9)	4.1	9.1	BI	神通	灰黄	60	覆土	底部周辺右回転ヘラ削り
11	須恵坏			5.9	BFL	良好	灰	底部	カマド	底部全面右回転ヘラ削り
12	須恵椀	(16.4)	5.8	(9.0)	BI	良好	灰	15	覆土	底部右回転ヘラ削り
13	須恵高台皿			(9.7)	BI	良好	灰	40	覆土	
14	須恵蓋	(16.5)	4.2		B	良好	灰	20	覆土	外面右回転ヘラ削り
15	土師甕			5.3	BE	神通	灰黄褐	70	カマド	外面↓方向ヘラ削り　内面横ナデ　台付甕　台欠損か？
16	土師甕			4.0	BE	普通	にぶい黄橙	80	カマド	外面←・↑方向ヘラ削り　内面横ナデ
17	土師甕			4.8	EH	普通	明褐	60	カマド	外面↓方向ヘラ削り
18	土師甕				EJL	普通	にぶい黄橙	50	カマド	外面↑方向ヘラ削り
19	土師甑	20.2	22.1	5.3	EH	神通	にぶい橙	80	カマド	口縁部外面横ナデ
20	土師甕	19.6	26.5	5.0	E	普通	明赤褐	70	カマド	
21	土師甕	19.1			BEJ	普通	橙	70	カマド	胴部外面←・↓方向ヘラ削り
22	土師甕	(21.3)			EG	普通	橙	45	カマド	
23	土師台付甕			(8.2)	ABEJ	神通	明赤褐	台部	覆土	脚部内外面横ナデ

第９号住居跡出土土錘観察表（第25・26図）

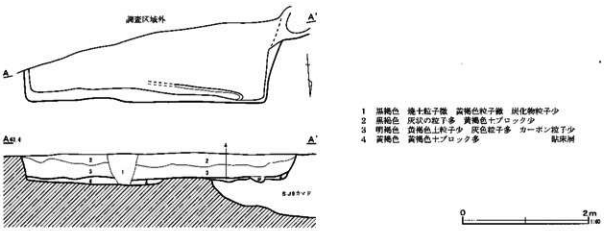
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
25	4.15	1.66	0.59	11.4	B a Ⅴ	C	にぶい黄褐	100	
26	(4.15)	1.49	0.57	(9.5)	B a Ⅴ	C	黒褐	95	
27	4.20	1.69	0.64	10.5	B a Ⅴ	A	黒褐	100	
28	4.15	1.75	0.59	10.7	B a Ⅴ	C	にぶい黄橙	100	
29	4.30	1.96	0.60	(12.2)	C a Ⅴ	B	にぶい黄橙	95	
30	4.60	1.62	0.67	(11.8)	B a Ⅴ	A	にぶい黄褐	95	
31	(4.30)	1.73	0.62	(13.4)	B a	C	にぶい黄橙	90	
32	4.60	1.68	0.38	13.4	B a	A	にぶい褐	100	
33	4.80	1.78	0.46	(14.8)	B a Ⅴ	A	明赤褐	95	
34	(4.70)	1.60	0.60	(11.7)	B a Ⅴ	C	橙	95	
35	(4.70)	1.80	0.57	(14.6)	B b Ⅴ	C	橙 褐灰	100	
36	5.00	1.71	0.35	15.3	B a Ⅴ	B	黒褐	100	
37	4.85	1.82	0.43	(13.0)	C b Ⅴ	C	浅黄橙	95	
38	5.10	1.55	0.49	9.8	C a Ⅴ	C	橙	100	
39	4.85	2.10	0.55	(16.7)	C a Ⅴ	B	暗褐	85	
40	(4.80)	1.91	0.65	(12.4)	C a Ⅳ	B	橙	70	
41	(5.00)	1.76	0.60	(14.0)	B a Ⅴ	C	黒褐	85	
42	5.10	2.02	0.40	17.7	C a Ⅴ	C	にぶい黄橙 にぶい黄橙	100	
43	5.20	1.91	0.65	17.5	B a Ⅴ	C	にぶい黄褐	100	
44	5.10	2.15	0.59	19.2	C a Ⅴ	A	暗灰黄	100	
45	5.50	2.01	0.60	19.3	B a Ⅳ	C	にぶい黄橙	100	
46	5.30	2.05	0.52	17.2	C a Ⅴ	B	灰黄褐 橙	100	
47	5.20	1.94	0.64	18.3	B a Ⅴ	C	橙 にぶい橙	100	
48	5.50	1.68	0.48	13.8	C a Ⅳ	C	明赤褐	100	
49	(5.65)	1.96	0.68	(18.1)	B a Ⅳ	C	浅黄橙	95	
50	5.50	1.98	0.54	(17.3)	C a Ⅳ	C	にぶい黄褐	90	
51	5.70	2.07	0.53	20.1	C a Ⅳ	C	にぶい橙	100	
52	(5.75)	1.71	0.52	(17.1)	A a Ⅳ	C	にぶい黄褐	95	
53	(5.95)	2.20	0.81	(25.4)	B a Ⅳ	C	灰白	95	
54	5.95	2.15	0.62	23.9	C a Ⅳ	C	にぶい褐	100	
55	5.90	2.25	0.68	26.4	C b Ⅳ	C	にぶい黄橙	100	
56	5.80	2.36	0.77	(36.1)	F b Ⅳ	B	黒	95	
57	6.20	2.03	0.64	23.6	C a Ⅳ	C	にぶい橙	100	
58	6.70	2.08	0.40	24.7	B a Ⅲ	C	灰白 橙 にぶい橙	100	
59	(6.40)	2.14	0.67	(27.2)	C a Ⅲ	C	黒	90	
60	(6.50)	1.97	0.74	(24.0)	B b Ⅲ	C	にぶい黄橙	100	
61	(7.30)	2.35	0.75	(34.3)	C a Ⅲ	B	赤褐 灰黄褐	95	
62	7.15	2.30	2.66	(30.3)	C a Ⅲ	B	褐灰	90	
63	(7.30)	2.01	0.60	(25.6)	B a Ⅱ	C	にぶい黄橙	90	
64	(7.45)	2.25	0.63	(26.9)	C a Ⅲ	C	浅黄橙	95	
65	7.95	1.82	0.53	26.8	A a Ⅱ	C	黒褐	100	
66	(4.20)	1.98	0.67	(15.2)	C a	C	にぶい黄橙	55	
67	6.05	(1.90)	0.60	(10.9)		C	にぶい赤褐	45	

第10号住居跡（第27・28図）

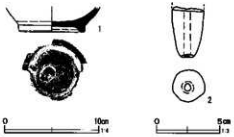
C－4・5グリッドに位置する。第9号住居跡のカマドを切っている。南側がほとんど調査区域外になっているが、南壁は4.00m、深さ35～40cm程を測る。主軸方位は、南壁を基準にするとN－3°－Eを指す。

壁溝は、南壁で一部確認でき、幅20～30cm、深さ5～7cmを測る。

遺物は、須恵器高台付坏、土錘の他は土師器小片が僅かに出土した。



第27図　第10号住居跡



第28図　第10号住居跡出土遺物

第10号住居跡出土遺物観察表（第28図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高台坏			(6.6)	BJ	不良	灰黄	80	覆土	

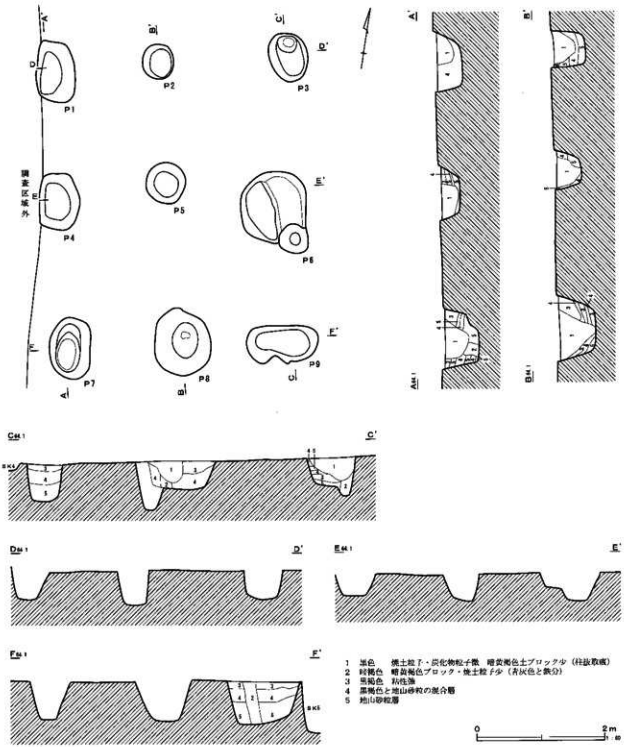
第10号住居跡出土土錘観察表（第28図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
2	(4.00)	(2.60)	0.55	(23.4)	Ba	C	橙	50	

2．掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第29・32図）

Ｃ－２グリッドに位置する。２間×２間の総柱建物で、桁行4.5ｍ、梁行3.5～3.8ｍである。柱間は、桁行1.65～3.15ｍとばらつきがあるが主体は2.0～2.5ｍ、梁行は1.75～2.17ｍである。主軸方位は、Ｎ－12°－Ｗを指す。



第29図　第１号掘立柱建物跡

柱穴は円形または楕円形で、径50～98cm、深さ30～65cmを測る。柱痕は３本で観察され、Ｐ３では底面に小穴が検出された。

遺物は、ピット９から土錘が出土した。その他に土師器小片と底部糸切り離し後無調整の須恵器坏小片が出土した。

第２号掘立柱建物跡（第30図）

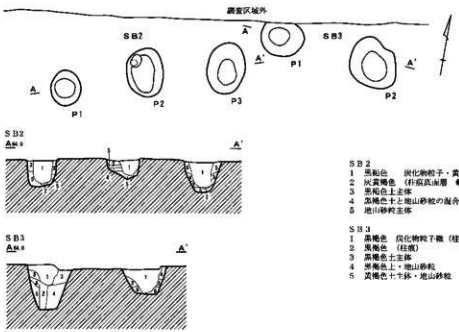
Ｂ－２グリッドに位置する。第３号掘立柱建物跡と重複する可能性があるが、北側が調査区域外であり２間と１間分が確認できたのみで、桁行は不明、梁行2.62ｍである。柱間は、梁行で1.28～1.30ｍである。主軸方位は、Ｎ－16°－Ｗを指す。

柱穴は円形または楕円形で、径48～82cm、深さ32～47cmを測る。柱痕は検出された３本すべてで観察された。

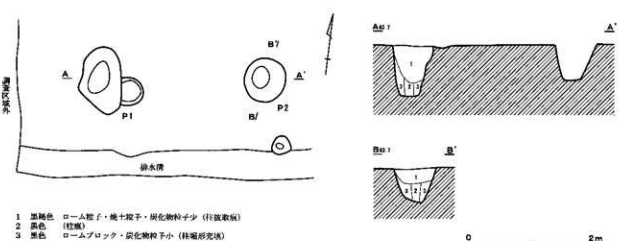
遺物は、検出されなかった。

第３号掘立柱建物跡（第30図）

Ｂ－２グリッドに位置する。北側が調査区域外で



第30図　第２・３号掘立柱建物跡



第31図　第４号掘立柱建物跡

２本の柱穴が確認できたのみであるが、第２号掘立柱建物跡と重複する可能性がある。桁行、梁行は不明である。柱間は、梁行で1.58ｍである。主軸方位は、Ｎ－８°－Ｅを指す。

柱穴は楕円形で、径68～86cm、深さ40～72cmを測る。柱痕は確認できた２本で観察された。

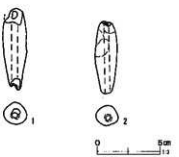
遺物は、検出されなかった。

第４号掘立柱建物跡（第31・32図）

Ｄ－２グリッドに位置する。南側と西側が調査区域外で２本の柱穴が確認できたのみである。柱間は、桁行2.60ｍである。主軸方位は、Ｎ－84°－Ｅを指す。

柱穴は円形または楕円形で、径65～107cm、深さ52～78cmを測る。柱痕は確認できた２本で観察された。

遺物は、土錘がＰ２から出土した他、土師器破片が出土した。



第32図　第１・４号掘立柱建物跡出土遺物

掘立柱建物跡出土土錘観察表（第32図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
1	6.45	1.88	0.48	(18.3)	Ｂａ Ⅲ	A	橙	80	ＳＢ１Ｐ９
2	5.70	1.73	0.43	15.5	Ｂａ Ⅳ	A	橙	100	ＳＢ４Ｐ２

３．土　坑

第１号土坑（第33図）

Ｃ－２グリッドに位置する。第１号掘立柱建物跡と重複しているが先後関係は不明である。平面形は、楕円形を呈する。規模は、軸長60cm、幅44cm、深さ44cmを測る。主軸方位は、Ｎ－２°－Ｗを指す。

遺物は、底部調整が糸切り後周辺ヘラ削りの須恵器坏片が出土した。

第２号土坑（第33図）

Ｃ－２グリッドに位置する。第１号掘立柱建物跡と重複しているが、先後関係は不明である。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ90cm、幅52cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、Ｎ－57°－Ｅを指す。

第３号土坑（第33図）

Ｄ－２グリッドに位置する。第１号住居跡と重複し、切っている。平面形は、円形を呈する。規模は、径81cm、深さ48cmを測る。主軸方位は、Ｎ－15°－Ｗを指す。

第４号土坑（第33図）

Ｃ－２グリッドに位置する。第１号掘立柱建物跡Ｐ９と重複しているが、重複箇所に他のピットがあり先後関係は不明である。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ148cm、幅103cm、深さ26cmを測る。主軸方位は、Ｎ－90°－Ｅを指す。

遺物は、土錘の他に土師器片・須恵器高台片が出土した。

第５号土坑（第33・38図）

Ｃ－２グリッドに位置する。第６号土坑と重複しているが先後関係は不明である。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長軸92cm、幅68cm、深さ84cmを測る。主軸方位は、Ｎ－10°－Ｗを指す。

遺物は、土錘の他に土師器片が出土した。

第６号土坑（第33図）

Ｃ－２グリッドに位置する。第５号土坑と重複し

ているが先後関係は不明である。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸63cm、幅52cm、深さ56cmを測る。主軸方位は、N－12°－Eを指す。

第7号土坑（第33図）

C－2グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸111cm、幅88cm、深さ24cmを測る。主軸方位は、N－6°－Wを指す。

第8号土坑（第33図）

C－2グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径118cm×108cm、深さ36cmを測る。主軸方位は、N－54°－Wを指す。

第9号土坑（第33図）

C・D－2グリッドに位置する。第1号住居跡と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ180cm、確認できた幅124cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N－17°－Wを指す。

遺物は、土師器台付甕の他に土師器甕片が出土した。

第10号土坑（第33図）

B・C－2グリッドに位置する。平面形は、長方を呈する。規模は、長さ134cm、幅82cm、深さ14cmを測る。主軸方位は、N－10°－Wを指す。

第11号土坑（第33図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径82cm×80cm、深さ64cmを測る。主軸方位は、N－19°－Wを指す。

第12号土坑（第33図）

C－2グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径62cm×60cm、深さ30cmを測る。主軸方位は、N－39°－Eを指す。

第13号土坑（第33図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径54cm、深さ68cmを測る。

第14号土坑（第33図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長軸119cm、幅90cm、深さ25cmを測る。主軸方位は、N－2°－Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

第15号土坑（第34図）

C－2・3グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ130cm、幅80cm、深さ44cmを測る。主軸方位は、N－45°－Eを指す。

第16号土坑（第34図）

B－3グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ120cm、幅76cm、深さ68cmを測る。主軸方位は、N－5°－Wを指す。

第17号土坑（第34図）

B－3グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径122cm×115cm、深さ24cmを測る。主軸方位は、N－17°－Eを指す。

第18号土坑（第34図）

C－2グリッドに位置する。平面形は、長楕円形を呈する。規模は、長さ209cm、幅50cm、深さ29cmを測る。主軸方位は、N－5°－Wを指す。

遺物は、土師器片、須恵器坏の回転糸切りの底部片が出土した。

第19号土坑（第34・38図）

C・D－3グリッドに位置する。第21号土坑と重複し、切られている。平面形は、楕円形を呈するとみられる。規模は、長さ154cm以上、幅78cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N－10°－Wを指す。

遺物は、上錘の他に土師器片、須恵器蓋片が出土した。

第20号土坑（第34図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長さ88cm、幅68cm、深さ52cmを測る。主軸方位は、N－74°－Wを指す。

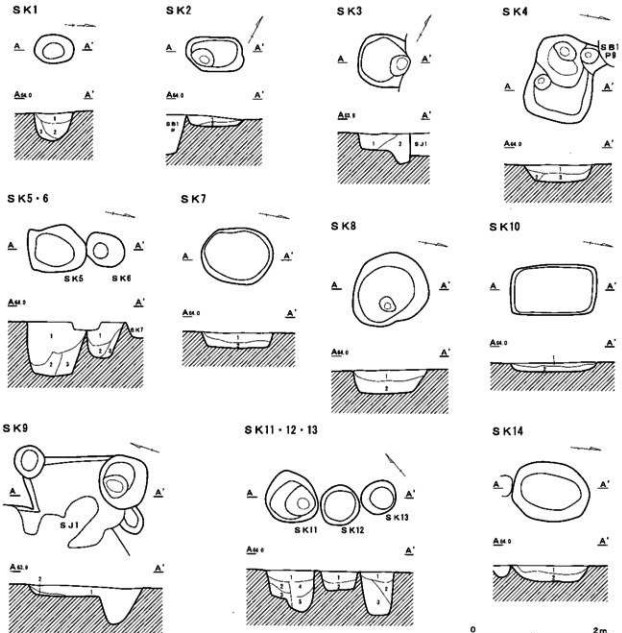
第21号土坑（第34図）

D－3グリッドに位置する。第19号土坑と重複し、切っている。平面形は、円形を呈する。規模は、径102cm×100cm、深さ16cmを測る。

遺物は、土師器片、須恵器蓋片が出土した。

第22号土坑（第34図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、瓢形を呈



SK1
1 黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子少
2 灰色　炭化物粒子少
3 黒褐色土と黄褐色土ブロックの混合層

SK2
1 黒褐色　炭化物粒子微
2 黒褐色と黄褐色土ブロックの混合層

SK3
1 黒褐色　炭化物粒子・焼土粒子微
2 黒褐色　黄褐色土ブロック多

SK4
1 黒褐色　黒色土粒子・黄褐色土粒子微
2 黒褐色　黄褐色土ブロックやや多
3 暗褐色　黄褐色土多

SK5
1 黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土ブロック少
2 黒褐色　黄褐色土ブロックやや多
3 黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少

SK6
1 黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子少
2 褐色　焼土粒子・炭化物粒子・黄褐色土粒子微
3 暗褐色　黄褐色土ブロック多

SK7
1 黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子微
2 暗褐色　黄褐色粒子少

SK8
1 黒褐色　炭化物粒子・黄褐色土粒子少
2 暗褐色　黄褐色土ブロック多

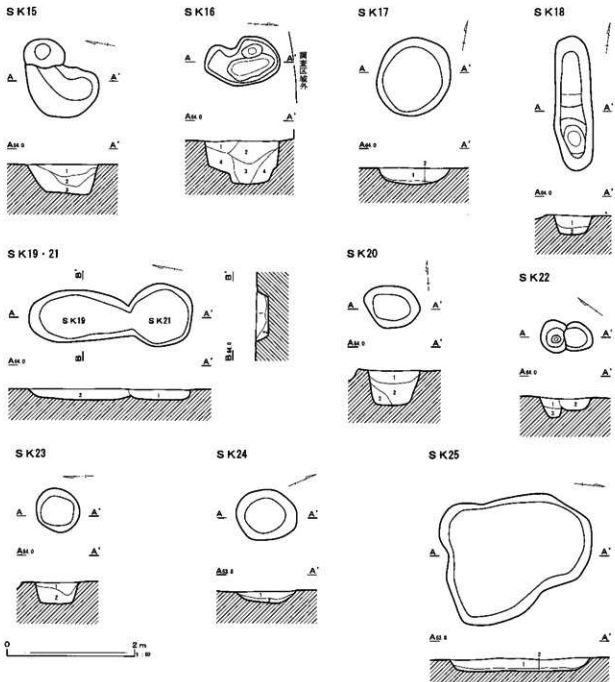
SK9
1 暗褐色　焼土・炭化物粒子　黄褐色土粒子少
2 暗褐色　黄褐色粒子多

SK10
1 暗褐色　黄褐色土粒子
2 暗褐色　黄褐色土ブロック

SK11・12・13
1 暗褐色　黄褐色土粒子・炭上粒子少
2 暗褐色　黄褐色土粒子
3 暗黄褐色　黄褐色土粒子多
4 褐褐色　炭褐色ブロック少
5 暗褐色　黄褐色ブロック多

SK14
1 暗褐色　炭褐色土粒子
2 暗褐色　黄褐色土ブロック・粒子多

第33図　土坑（1）



SK15
1 暗褐色　黄褐色土ブロック・粒子
2 暗褐色　黄褐色土ブロック少・粒子・焼土
3 暗黄褐色　黄褐色上粒子非常に多

SK16
1 暗褐色　砂粒・黄褐色土粒子多
2 暗褐色　焼土粒・黄褐色土粒子多
3 暗褐色　黄褐色十粒子多
4 暗黄褐色　砂質土　焼上粒少

SK17
1 暗褐色　焼十粒子
2 暗褐色　黄褐色十ブロック多

SK18
1 暗褐色　焼土粒・土器粒多
2 暗褐色　黄褐色上ブロック多

SK19
1 暗褐色　焼土粒・十器粒多
2 暗褐色　黄褐色上ブロック多

SK20
1 暗褐色
2 暗褐色　黄褐色ブロック多　焼上粒・炭化物粒子
3 暗褐色　焼上粒・黄褐色土粒　黄褐色ブロック

SK21
1 暗褐色　焼十粒・黄褐色十粒子多

SK22
1 暗褐色　黄褐色上粒子多
2 暗黄褐色　砂質土粒子多
3 暗褐色　黄褐色上ブロック多

SK23
1 暗褐色　黄褐色上ブロック・焼十粒多
2 暗黄褐色

SK24
1 暗褐色　黄褐色上粒子・焼十粒多
2 暗黄褐色

SK25
1 暗褐色　黄褐色十ブロック・焼十ブロック
2 暗褐色　黄褐色土ブロック多

第34図　土坑（2）

する。規模は、長さ80cm、幅50cm、深さ20～30cmを測る。主軸方位は、N－33°－Wを指す。ピット2基の重複とみられる。

第23号土坑（第34・38図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径70cm×66cm、深さ32cmを測る。

遺物は、ロクロ土師器坏が出土した。

第24号土坑（第34図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ100cm、幅82cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N－30°－Eを指す。

第25号土坑（第34・38図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ240cm、幅155～200cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、N－27°－Wを指す。

遺物は、須恵器坏、土師器坏、土錘が出土した。

第26号土坑（第35図）

D－2・3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ78cm、幅60cm、深さ25cmを測る。主軸方位は、N－89°－Wを指す。

第27号土坑（第35図）

D－3グリッドに位置する。第35号土坑と重複し、切っている。平面形は、円形を呈する。規模は、径136cm×128cm、深さ19cmを測る。

第28号土坑（第35図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ104cm、幅69cm、深さ24cmを測る。主軸方位は、N－8°－Wを指す。

第29号土坑（第35図）

C・D－3グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ108cm、幅66cm、深さ22cmを測る。主軸方位は、N－78°－Eを指す。

第30号土坑（第35図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ76cm、幅50cm、深さ26～38cmを測る。主軸方位は、N－9°－Eを指す。

第31号土坑（第35・38図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ50cm、幅42cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N－20°－Eを指す。

遺物は、須恵器坏片が出土した。

第32号土坑（第35・38図）

C－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ62cm、幅54cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N－15°－Wを指す。

遺物は、土錘が出土した。

第33号土坑（第35・44図）

B・C－3グリッドに位置する。平面形は、瓢形を呈する。規模は、長さ90cm、幅42cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N－2°－Wを指す。

遺物は、安山岩製の打製石斧が出土した。

第34号土坑（第35図）

B・C－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ85cm、幅62cm、深さ14cmを測る。主軸方位は、N－56°－Eを指す。

第35号土坑（第35図）

D・E－3グリッドに位置する。第27号土坑と重複し、切られている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ346cm、幅246cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N－7°－Wを指す。

第36号土坑（第35図）

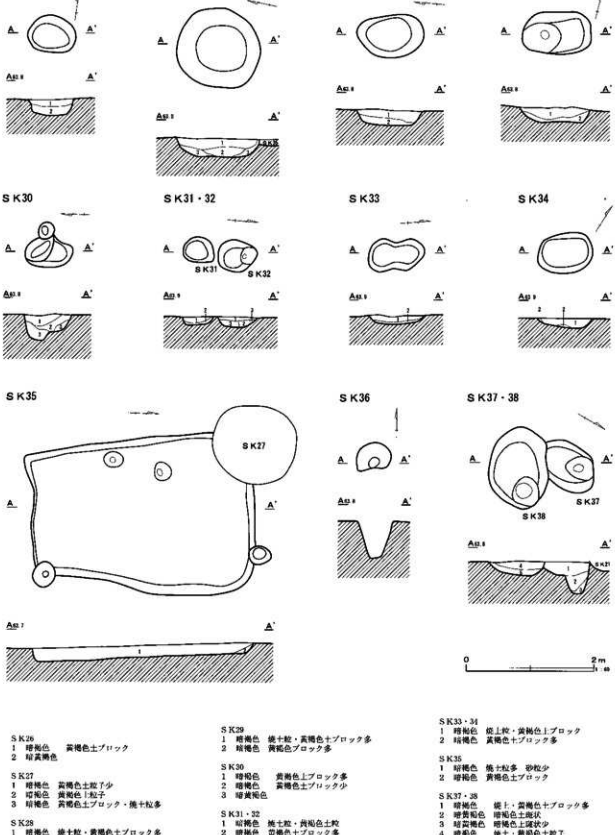
D－2グリッドに位置する。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長さ54cm、幅40cm、深さ55cmを測る。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

第37号土坑（第35図）

D－3グリッドに位置する。第38号土坑と重複し、切られている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ78cm以上、幅70cm、深さ20～50cmを測る。主軸方位は、N－12°－Wを指す。

第38号土坑（第35図）

D－3グリッドに位置する。第37号土坑と重複し、切っている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ124cm、幅90cm、深さ20cmを測る。主軸方位は、N－51°－Eを指す。



S K26
1　暗褐色　　黄褐色土ブロック
2　暗黄褐色

S K27
1　暗褐色　黄褐色土粒子少
2　暗褐色　黄褐色土粒子
3　暗褐色　黄褐色土ブロック・焼十粒多

S K28
1　暗褐色　焼十粒・黄褐色土ブロック多
2　暗褐色　黄褐色ブロック多

S K29
1　暗褐色　焼十粒・黄褐色土ブロック多
2　暗褐色　黄褐色ブロック多

S K30
1　暗褐色　黄褐色土ブロック多
2　暗褐色　黄褐色土ブロック少
3　暗黄褐色

S K31・32
1　暗褐色　焼十粒・黄褐色土粒
2　暗褐色　黄褐色土ブロック多
3　暗褐色

S K33・34
1　暗褐色　焼土粒・黄褐色土ブロック
2　暗褐色　黄褐色土ブロック多

S K35
1　暗褐色　焼十粒多　砂粒少
2　暗褐色　黄褐色土ブロック

S K37・38
1　暗褐色　焼土・黄褐色土ブロック多
2　暗黄褐色　暗褐色土縞状
3　暗黄褐色　暗褐色土縞状少
4　暗褐色　焼土・黄褐色土粒子
5　暗褐色　黄褐色土ブロック多

第35図　土坑（3）

遺物は、土師器片が出土した。

第39号土坑（第36図）

C－5グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ76cm、幅52cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、N－80°－Eを指す。

第40号土坑（第36・38図）

C－4グリッドに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径120cm×110cm、深さ18cmを測る。

遺物は、須恵器高台付埦・蓋、土師器甕、土錘が出土した。

第41号土坑（第36・38図）

C－4グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ112cm、幅84cm、深さ17cmを測る。主軸方位は、N－63°－Eを指す。

遺物は、土師器坏の他に甕片が出土した。

第42号土坑（第36図）

C－4・5グリッドに位置する。第43号土坑・ピットと重複し、両者に切られている。平面形は、円形を呈する。規模は、径137cm×120cm、深さ10cmを測る。

遺物は、土師器甕片が出土した。

第43号土坑（第36図）

C－4・5グリッドに位置する。第42号土坑と重複し、切っている。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ136cm、幅64cm、深さ46cmを測る。主軸方位は、N－87°－Eを指す。

遺物は、須恵器坏片・土師器片が出土した。

第44号土坑（第36図）

B－4グリッドに位置する。平面形は、長方形を呈する。規模は、長さ186cm、幅70cm、深さ8cmを測る。主軸方位は、N－85°－Eを指す。

第45号土坑（第36・38図）

B－4グリッドに位置する。ピットと重複し、切っている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ84cm、幅66cm、深さ64cmを測る。主軸方位は、N－10°－Wを指す。

出土遺物は、鉄製品（25）が出土している。薄板状の一端を折り曲げているが用途は不明である。

第46号土坑（第36図）

B－4グリッドに位置する。ピットに切られている。平面形は、円形を呈する。規模は、径84cm×72cm、深さ43cmを測る。主軸方位は、N－15°－Eを指す。

第47号土坑

B－3・4グリッドに位置する。第8号住居跡と重複し、切られている。平面形は、楕円形を呈するとみられる。確認できた規模は、長さ28cm以上、幅75cm、深さ16cmを測る。主軸方位は、N－75°－Eを指す。

第48号土坑（第36図）

B・C－4グリッドに位置する。ピットと重複している。平面形は、不整形を呈する。規模は、長さ120cm、幅90cm、深さ64cmを測る。主軸方位は、N－8°－Wを指す。

第49号土坑（第36図）

C－4グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ88cm、幅62cm、深さ24cmを測る。主軸方位は、N－0°－Eを指す。

第51号土坑（第36図）

B－5グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径56cm×50cm、深さ10cmを測る。主軸方位は、N－45°－Wを指す。

第52号土坑（第36図）

C－5グリッドに位置する。東側は調査区域外となっている。平面形は、不明である。確認できた規模は、長さ100cm、幅77cm、深さ9cmを測る。

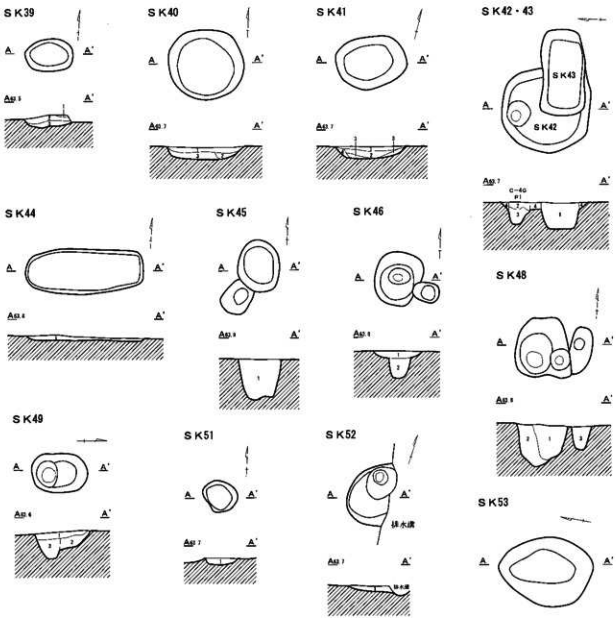
第53号土坑（第36・38図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ147cm、幅113cm、深さ32cmを測る。主軸方位は、N－0°－Wを指す。

遺物は、土師器、須恵器坏、土錘が出土した。

第54号土坑（第37・38図）

B・C－4グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径90cm×84cm、深さ9cmを



S K39
1 暗褐色 焼土ブロック多
2 暗褐色 焼土ブロック・黄褐色土ブロック・カーボン少 黄褐色土粒子・炭状粒子多
3 黄褐色 暗褐色ブロック少 炭状粒子微

S K40
1 暗褐色 炭状粒子多 赤色土粒子微
2 黒褐色 焼土ブロック・黄褐色土粒子微 炭状粒子少
3 暗褐色 焼土ブロック微 黄褐色土粒子多 炭状粒子少

S K41
1 暗褐色 炭状粒子微
2 黄褐色 黄褐色土粒子少 焼土粒子・カーボン微
3 黒褐色 黄褐色土ブロック多
4 黄褐色 黄褐色土ブロック多

S K42・43
1 黄褐色 黄褐色土ブロック・黄褐色土粒子多 瑪瑙し上
2 黒褐色 カーボン微 炭状粒子少
3 黒褐色 黄褐色土粒子多 焼土粒子微
4 明褐色 黄褐色土粒子少 黄褐色土ブロック微 カーボン少 炭状粒子微

S K44
1 暗褐色 砂質・黄褐色土粒子少

S K45
1 黒褐色 黄褐色土ブロック多 砂質

S K46
1 暗黒褐色 炭化物粒子・黄褐色土粒子少
2 黒褐色 黄褐色土ブロック

S K48
1 黒褐色 黄褐色土ブロック多
2 黄褐色土ブロック
3 黒褐色 焼土ブロック・黄褐色土ブロック多

S K49
1 明褐色 黄褐色土粒子少 炭状粒子多
2 明褐色 黄褐色土ブロック多
3 暗褐色 黄褐色土ブロック少

S K51
1 黒褐色カーボン・焼土粒子多

S K52
1 明褐色 黄褐色土粒子多 カーボン微

S K53
1 黒色 焼土粒子・炭化物粒子
2 暗褐色 黄褐色土ブロック多

第36図 土坑（4）

測る。

遺物は、土師器坏・甕片、須恵器坏底部片は糸切り後周辺ヘラ削りのものが出土した。

第55号土坑（第37図）

D－4グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ146cm、幅102cm、深さ18cmを測る。主軸方位は、N－12°－Wを指す。

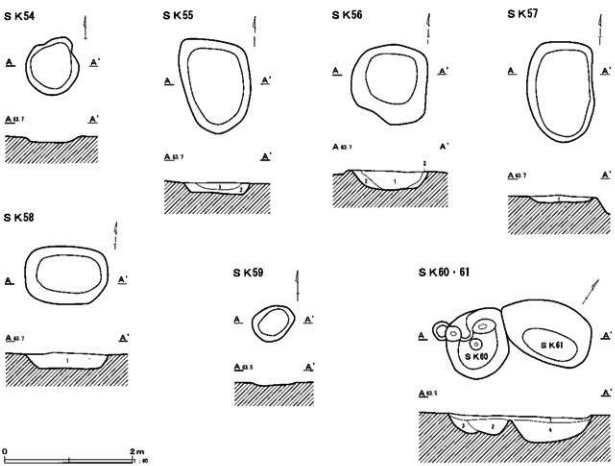
第56号土坑（第37・38図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径124cm×120cm、深さ30cmを測る。

遺物は、土錘の他に土師器片が出土した。

第57号土坑（第37図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ157cm、幅102cm、深さ12cmを測る。主軸方位は、N－7°－Wを指す。



SK55
1　黒褐色　黄褐色土ブロック多
2　暗褐色　黄褐色土粒子少

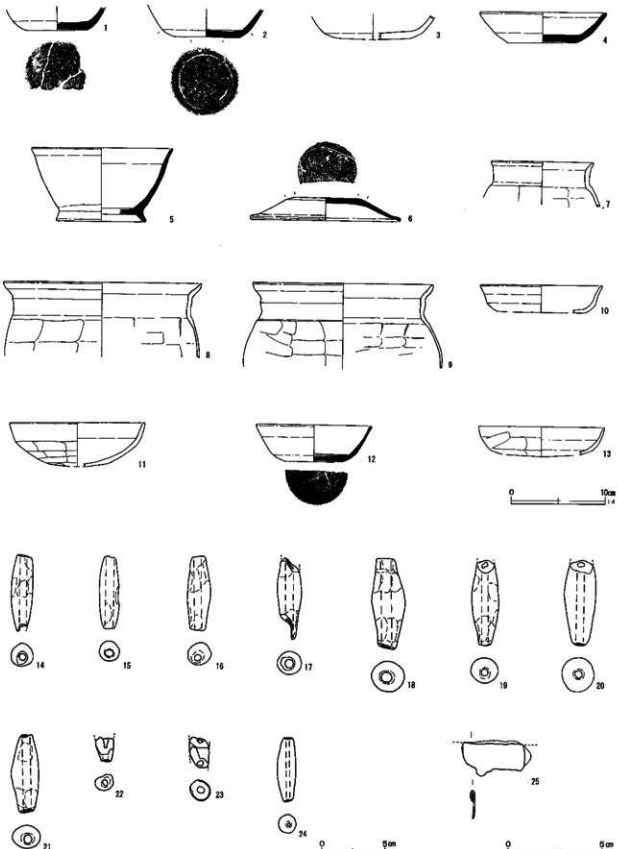
SK56
1　黒褐色　黄褐色土粒子少
2　暗褐色　黄褐色土ブロック多

SK57
1　黒褐色　黄褐色土粒子少

SK58
1　黒褐色　黄褐色土ブロック多

SK60・61
1　黒色　白色粒子少
2　黒褐色　焼土粒子・炭化物粒子微
3　暗褐色　焼土粒子・炭化物粒子微
4　黒褐色　炭化物粒子微

第37図　土坑（5）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
0
10cm
1:4
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
0
5cm
1:2
0
5cm
1:2

第38図　土坑出土遺物

第58号土坑（第37図）

D－3グリッドに位置する。平面形は、隅丸長方形を呈する。規模は、長さ130㎝、幅90㎝、深さ24㎝を測る。主軸方位は、N－90°－Eを指す。

第59号土坑（第37・38図）

C－4グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径64㎝×54㎝、深さ4㎝を測る。主軸方位は、N－55°－Eを指す。

遺物は、土錘の他に土師器甕片が出土した。

第60号土坑（第37図）

D－4グリッドに位置する。平面形は、不整円形を呈する。規模は、径116㎝×102㎝、深さ28㎝を測る。

第61号土坑（第37・44図）

D－4グリッドに位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ154㎝、幅96㎝、深さ40㎝を測る。主軸方位は、N－72°－Eを指す。

遺物は、砂岩製の打製石斧が出土した。

土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏			5.3	B	普通	にぶい橙	60	SK23	底部右回転糸切り
2	須恵坏			7.0	J	普通	灰オリーブ	70	SK25	底部周辺及び体部外面下端右回転ヘラ削り
3	土師甕			(8.0)	BD	普通	橙	30	SK25	内面焼成による黒色
4	須恵坏	(13.1)	3.3	(7.2)	J	不良	灰白	30	SK31	底部回転糸切り　磨耗し不明瞭
5	須恵高台塊	(14.8)	7.9	(9.8)	FL	不良	灰白	30	SK40	高台接合痕明瞭　底部内面ヘラ同心円文
6	須恵蓋	(15.8)	2.5		BF	良好	灰	50	SK40	天井径6.7 天井部右回転糸入り 肩部右回転ヘラ削り
7	土師甕	10.7			B	普通	にぶい褐	80	SK40	頸部内面ヘラナデ　胴部外面←方向ヘラ削り 内面横ナデ
8	土師甕	(20.7)			BE	普通	明赤褐	20	SK40	頸部外面ヘラナデ　胴部外面←方向ヘラ削り 内面工具・指頭横ナデ
9	土師甕	(18.9)			E	普通	橙	20	SK40	頸部外面横ナデ　胴部外面←方向ヘラ削り
10	土師坏	(12.8)	2.9	(9.3)	J	不良	にぶい橙	15	SK41	器壁磨耗し整形不明瞭
11	土師坏	(14.1)	4.6		ADJ	普通	にぶい橙	35	SK53	口縁部内外面横ナデ　体部外面←方向ヘラ削り
12	須恵坏	(12.1)	3.9	(5.8)	ABI	良好	灰	35	SK53	底部ヘラ削り　ヘラ記号　底部のみ酸化炎焼成
13	土師坏	(13.3)			AE	普通	暗灰黄	15	SK54	体部下半外面～底部ヘラ削り　内面一部油煙付着

土坑出土土錘観察表（第38図）

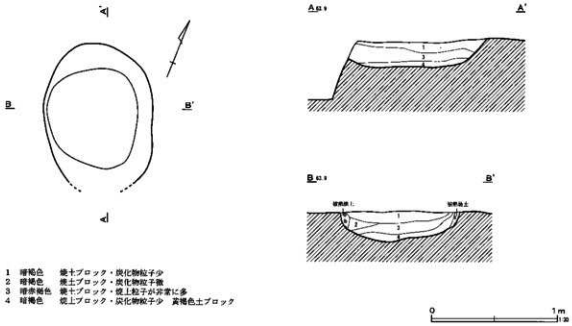
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
14	(5.95)	1.75	0.57	(17.8)	Ba Ⅲ	C	浅黄橙	90	SK5
15	5.75	1.58	0.68	(13.7)	Ba Ⅳ	A	にぶい橙	95	SK19
16	5.85	1.84	0.58	16.2	Ca Ⅳ	C	にぶい黄橙	100	SK25
17	(6.35)	1.92	0.62	17.2	Ca Ⅲ	C	にぶい橙	75	SK25
18	7.15	2.63	0.86	未計測	Ca Ⅳ	B	にぶい褐	95	SK32
19	(6.75)	2.18	0.55	(25.9)	Ca Ⅲ	C	褐　黒褐	90	SK40
20	(6.70)	2.66	0.58	(42.5)	Ba Ⅱ	C	橙	85	SK40
21	6.10	2.15	0.65	21.4	Ca Ⅳ	B	黒	100	SK53
22	(1.95)	(1.47)	0.50	(2.3)	b	B	暗赤褐	15	SK53
23	(2.35)	(1.65)	0.65	(5.5)		A	橙		SK56
24	5.05	1.44	0.26	10.8	Ba Ⅴ	A	橙	100	SK59

4．性格不明遺構

第１号性格不明遺構（第39・40図）

Ｃ－２グリッドに位置する。第１号住居跡北東隅の住居跡覆土を切り込んだ土坑状の遺構である。覆土には、焼土ブロック・炭化物粒子が含まれ、東西の両壁が被熱している。平面形は、楕円形を呈する。規模は、確認できた長さ112㎝、幅87㎝、深さ24㎝を測る。主軸方位は、Ｎ－24°－Ｗを指す。

遺物は、土錘が出土した。



第39図　第１号性格不明遺構

第40図　第１号性格不明遺構出土遺物

第1号性格不明遺構出土土錘観察表（第40図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
1	(5.45)	2.21	0.80	(18.6)	C a V	B	にぶい黄褐	95	

5．ピット

B－2G．P1（第41図）

B－2グリッドの南東部に位置する。第2号掘立柱建物跡と重複する。平面形は、円形を呈する。規模は、径30cm×26cm、深さ45cmを測る。

遺物は、土師器片が出土した。

B－2G．P2（第41図）

G－2グリッドの南西部に位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径16cm、深さ8cmを測る。

遺物は、陶器片が出土した。

B－3G．P1（第41図）

B－3グリッドの南東部に位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ35cm、幅28cm、深さ23cmを測る。主軸方位は、N－11°－Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

B－4G．P1（第41図）

B－4グリッドの西半中央に位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ42cm、幅32cm、深さ79cmを測る。主軸方位は、N－0°－Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

B－4G．P2（第41図）

B－4グリッド中央に位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ42cm、幅30cm、深さ41cmを測る。主軸方位は、N－85°－Eを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

B－4G．P3（第41図）

B－4グリッド東端中央に位置する。浅いピットと北側で重複している。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ43cm、幅29cm、深さ45cmを測る。主軸方位は、N－90°－Eを指す。

遺物は、礫片が出土した。

C－2G．P1（第41・43図）

C－2グリッド中央に位置する。C－2グリッドP2・第1号掘立柱建物跡と重複し、P2を切っている。平面形は、円形を呈する。規模は、径42cm×36cm、深さ21cmを測る。主軸方位は、N－25°－Eを指す。

遺物は、土錘と土師器片が出土した。

C－2G．P2（第41図）

C－2グリッド中央に位置する。C－2グリッドP1・第1号掘立柱建物跡と重複し、P2に切られている。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ70cm、幅60cm、深さ50cmを測る。主軸方位は、N－25°－Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

C－3G．P1（第41・43図）

C－3グリッド西端中央やや北寄りに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径63cm×53cm、深さ75cmを測る。

遺物は、土錘の他に土師器片、須恵器瓶片が出土した。

C－3G．P2（第41図）

C－3グリッド南西部に位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径38cm×36cm、深さ15cmを測る。

遺物は、土師器片が出土した。

C－3G．P3（第41図）

C－3グリッド西端中央やや南寄りに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径45cm、深さ22cmを測る。

遺物は、土師器片が出土した。

C－4G．P1（第41・43図）

C－4グリッド北東部に位置する。第42号土坑を切っている。平面形は、円形を呈する。規模は、径40cm×38cm、深さ34cmを測る。

遺物は、土師器甕が出土した。

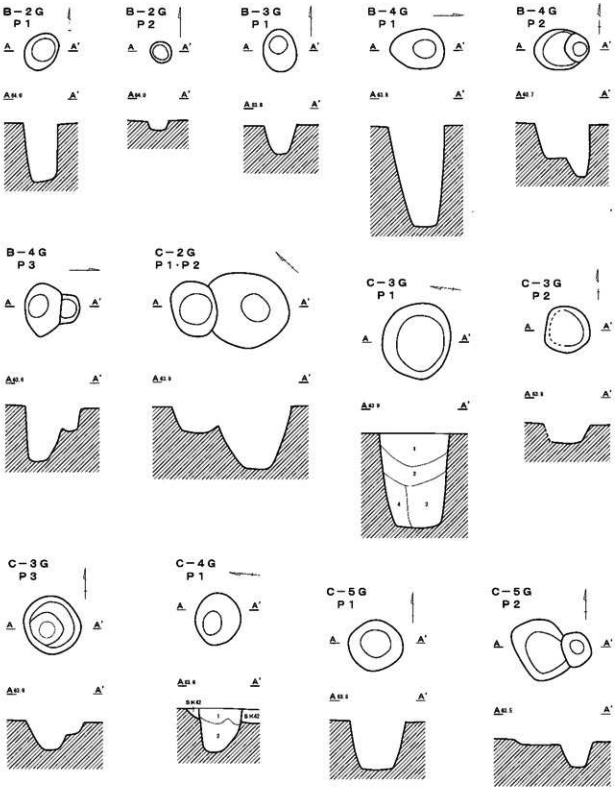
C－5G．P1（第41・43図）

C－5グリッド西端北寄りに位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径43cm×40cm、深さ37cmを測る。

遺物は、須恵器坏が出土した。

C－5G．P2（第41図）

C－5グリッドP1の東1m程に位置する。東側



C－3G P1
1 暗褐色　焼土粒・炭化物粒子多　黄褐色土ブロック
2 暗褐色　黄褐色土ブロック少
3 暗褐色
4 暗黄褐色

SK－42・43　C－4G P1
1 黒褐色　カーボン微　炭状粒子少
2 黒褐色　黄褐色土粒子多　焼土粒子微

0　1m
1:30

第41図　ピット（1）

で小ピットと重複している。平面形は、隅丸方形を呈する。規模は、長さ50cm、幅39cm、深さ5cmを測る。主軸方位は、N－32°－Wを指す。

遺物は、須恵器片、土師器片が出土した。

C－5G．P3（第42図）

C－5グリッドP2の北東1m程に位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径30cm、深さ27cmを測る。

遺物は、須恵器坏片と酸化焔焼成で底部糸切りの坏片が出土した。

D－2G．P1（第42図）

D－2グリッド北東部に位置する。平面形は、楕円形を呈する。規模は、長さ58cm、幅44cm、深さ32cmを測る。主軸方位は、N－19°－Wを指す。

遺物は、土師器片が出土した。

D－2G．P2（第42図）

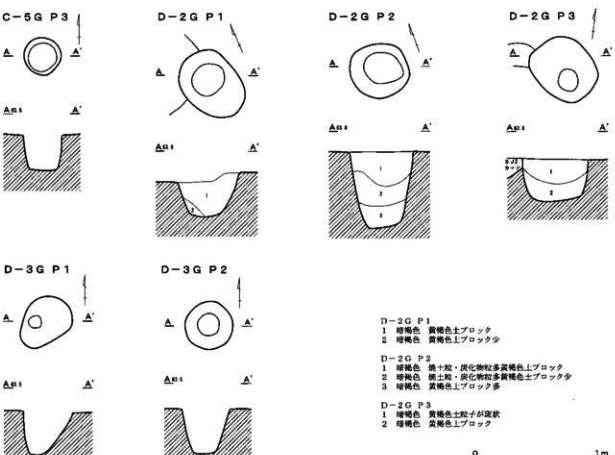
D－2グリッド北東部に位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径45cm×42cm、深さ60cmを測る。

遺物は、土師器片が出土した。

D－2G．P3（第42・43図）

D－2グリッド東端やや北寄りに位置する。第2号住居跡のカマドの先端と重複し、切っている。平面形は隅丸方形を呈する。規模は、長さ55cm、幅50cm、深さ33cmを測る。主軸方位は、N－40°－Wを指す。

遺物は、土錘の他に土師器片、須恵器甕片が出土した。



第42図　ピット（2）

D－3G．P1（第42図）

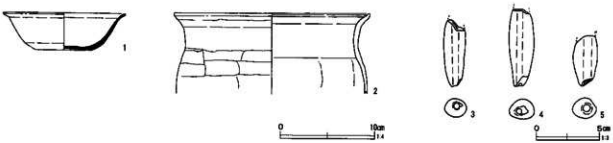
D－3グリッド南東部に位置する。平面形は、不整楕円形を呈する。規模は、長さ46cm、幅34cm、深さ35cmを測る。主軸方位は、N－45°－Eを指す。

遺物は、須恵器坏片底部糸切りのものと塊片が出土した。

D－3G．P2（第43図）

D－3グリッド南東部に位置する。平面形は、円形を呈する。規模は、径39cm×37cm、深さ35cmを測る。

遺物は、土師器片が出土した。



第43図　ピット出土遺物

ピット出土遺物観察表（第43図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵坏	(12.3)	3.9	6.0	BF	不良	灰黄	60	C－5G P1	底部回転糸切り
2	土師甕	(20.7)			BDE	良好	橙	15	C－4G P1	胴部外面ヘラ方向ヘラ削り

ピット出土土錘観察表（第43図）

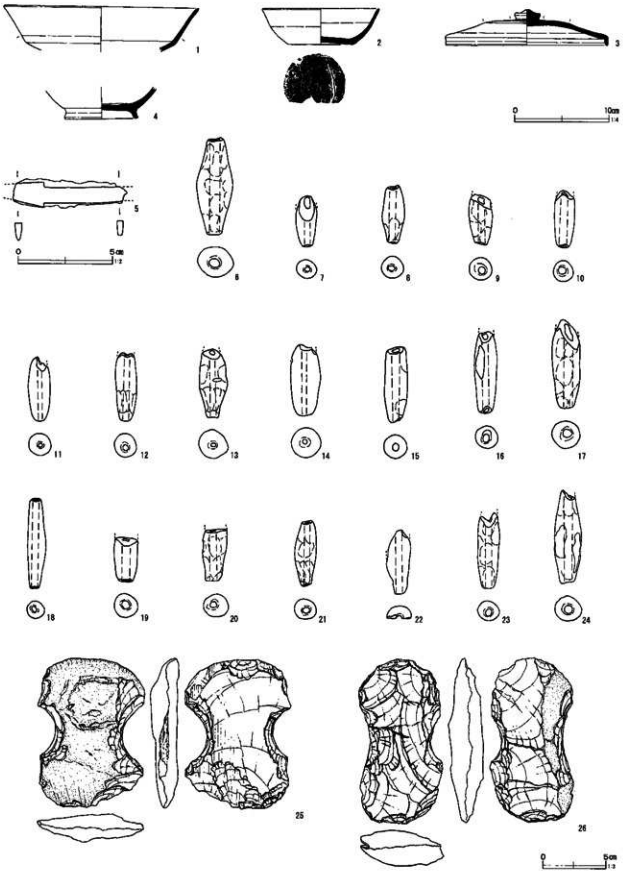
番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
3	(5.35)	1.73	0.45	(12.0)	B a Ⅳ	A	にぶい黄褐	75	C-2G　P1
4	(6.10)	(2.00)	0.45	(19.0)	B a Ⅲ	A	橙	90	C-3G　P1
5	(3.95)	1.93	0.65	(11.1)	B a Ⅴ	C	黄褐	70	D-2G　P3

6．グリッド出土・表採遺物

第44図5は鉄製の刀子で、刃部・茎ともに欠損している。刃部と茎の境は両関となっている。

25は打製石斧で、分銅形の形態を呈し、安山岩製である。第33号土坑覆土から出土した。

26は打製石斧で分銅形を呈し、砂岩製である。第61号土坑覆土から出土した。



第44図　グリッド出土・表採遺物

グリッド出土遺物観察表（第44図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存	出土位置	備考
1	須恵高坏	(20.4)				良好	灰白	10	SJ6・7層上	体部内外面回転ヘラ磨き　下半回転ヘラ削り
2	須恵坏	(12.2)	3.8	7.0	BFIL	良好	灰	55	C-4G	底部右回転糸切り
3	須恵蓋	(16.9)	3.8		BIJ	普通	灰黄	25	C-4G	天井部外面右回転ヘラ削り
4	須恵高台埦			7.4	BFL	普通	灰黄	70	D-3G №1	

グリッド出土・表採土錘観察表（第44図）

番号	長さ	径	孔径	重さ(g)	分類	胎土	色調	残存	備考
6	7.65	2.87	0.84	39.6	CaⅡ	B	灰白　褐灰	100	C-3G
7	4.00	1.61	0.45	(9.0)	BaⅥ	C	橙	75	C-4G
8	4.10	1.77	0.52	12.5	CaⅥ	C	橙	100	C-4G
9	(3.95)	1.85	0.55	(12.5)	BbⅤ	C	赤褐	80	C-4G
10	4.55	1.42	0.66	(11.8)	BaⅤ	C	黒褐	90	C-4G
11	(5.05)	1.77	0.30	(16.1)	BaⅤ	A	明赤褐	95	C-4G
12	(5.45)	1.82	0.50	(17.2)	BaⅣ	C	橙	90	C-4G
13	5.40	2.25	0.45	(23.8)	CaⅣ	C	にぶい黄橙	90	C-4G
14	5.55	2.36	0.35	(29.1)	BaⅣ	C	橙	90	C-4G
15	(6.00)	1.85	0.50	(20.0)	BaⅣ	A	灰黄褐	95	C-4G
16	(6.40)	1.76	0.60	(18.8)	BaⅢ	C	にぶい黄褐	90	C-4G
17	7.00	2.32	0.75	28.8	BaⅢ	C	にぶい黄橙	90	C-4G
18	(7.10)	1.43	0.50	(13.5)	BaⅢ	C	にぶい黄橙	100	C-4G
19	(3.45)	1.92	0.70	(11.8)	BaⅣ	C	橙	50	C-4G
20	(4.10)	1.95	0.55	(13.8)	B'aⅣ	C	にぶい褐	55	C-4G
21	5.70	1.72	0.55	12.0	Ca	A	橙	100	C-5G
22	(5.05)	1.95	0.50	(7.7)		A	橙	35	C-5G
23	(6.00)	1.75	0.60	(17.0)	BaⅣ	C	灰褐	85	表採
24	(7.35)	2.18	0.65	(25.8)	CaⅡ	C	黒褐	90	表採

V まとめ

如意南遺跡は、平成11年度に農道・ふるさと歩道部分の報告書（当事業団報告書第241集『如意／如意南』）が刊行されている。隣接する如意遺跡と川端遺跡を含めた報告は、平成12年度から平成14年度にかけて計３冊の報告書（当事業団報告書第264集『如意遺跡』、第276集『如意Ⅲ／川端』、第285集『如意遺跡Ⅳ』）が刊行された。竪穴住居跡だけでも500軒を超える集落の土器編年から集落変遷が明らかにされた。

当報告の如意南遺跡も同一の遺跡として捉えることができ、『如意遺跡Ⅳ』でまとめられたものと比較検討を行う。

如意南遺跡は、竪穴住居跡10軒の内８軒、土坑では60基中７基から図示し得る遺物が検出された。時期は、奈良時代終末から平安時代の９世紀代のもので、『如意遺跡Ⅳ』の土器編年では第Ⅶ期から第ⅩⅣ期にあたるが、今回の調査では第Ⅷ期から第XI期の住居跡は検出されていない。

第Ⅶ期

土師器坏は、口縁部と体部の段は沈線状で口縁が直立する第Ⅵ期からの減少傾向が続く11cm前後ものと外傾する有段口縁のものがある。甕は、くの字状口縁のものと第Ⅵ期の系統の最大径は口縁部にあるものの口縁部は僅かに外傾し、胴部は直立気味の２種がある。

第１号住居跡と第１次調査の第35号住居跡・第37号住居跡が該当する。

第ⅩⅡ期

土師器坏は、小型で内湾気味に立ち上がり、口縁部で上方に立ち上がるもの、皿状の浅いもので外傾して短く立ち上がるもの、さらに外傾が大きいものがあり、口径11cm程のものと12～14cmのものがある。甕は口径と胴部最大径がほぼ同じで、頸部は、くの字状のものもあるが主体は緩やかなくの字状である。須恵器は、坏・埦・蓋があり、坏は口径12～14cmで12cm代が主体で、器高3.5cm前後である。底部の調整は、全面回転ヘラ削り、回転糸切り後周辺部をヘラ削りするもの、回転糸切り後無調整のものが併存する。

第９号住居跡と第１次調査の第13号住居跡・第24号住居跡・第25号住居跡・第27号住居跡が該当する。

第ⅩⅢ期

土師器坏は、丸底・平底ともに体部は直線的に立ち上がる。甕はコの字状口縁への移行形態を示す。須恵器坏は、底部回転糸切り後無調整で、口径は12～13cmで12cm代のものが主体である。底径は６～７cmで、口径に対する底径の比が１/２からそれを上まわるものが多い。蓋は、つまみが扁平な疑宝珠状で、口縁部は直立し垂下する。

第５号住居跡・第７号住居跡・第８号住居跡と第１次調査の第１～４号住居跡・第10号住居跡・第４号住居跡・第42号住居跡が該当する。

第５号住居跡の瓶は如意遺跡第498号住居跡出土のものと高台端部の形態も同じもので第ⅩⅣ期に属するが須恵器・土師器の坏からⅩⅢ期とした。第７号住居跡は、坏の全容を知るものは１点のみで、底部糸切り後無調整で、口径に対する底径の比は1/2を上回る。坏底部のみであるが糸切り後無調整で径６cmのものが共伴する。高台付埦は、体部は高台部から内湾気味に立ち上がり、口縁部で外反することからⅩⅣ期の様相が窺える。

第ⅩⅣ期

土師器甕は、口縁がコの字状のものとコの字が崩れたような両者が存在する。須恵器坏は、底部回転糸切り後無調整で、口径は12～13cmで底径は６cm前後を主体とし、口径に対する底径の比が１/２かそ

れを下回る。器形は口縁部で外反する。第２号住居跡の１・２の坏は上師質であるが、成形・調整技法は須恵器と同じで、技法からは須恵器といえる。

第２号住居跡・第６号住居跡と第１次調査の第６号住居跡・第７号住居跡・第９号住居跡・第10号住居跡・第12号住居跡・第17号住居跡・第22号住居跡が該当する。第２号住居跡と第６号住居跡には時期差がある。

第６号住居跡の須恵器坏は、口径12～13cm、底径は５cm程と底径の縮小化がみられるが、器高は４cm程のものとⅩⅢ期の3.5cm程の２種が併存している。第ⅩⅣ期と第ⅩⅤ期の様相が窺える。

引用・参考文献

赤熊浩一　1998　『将監塚・古井戸』　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第71集

岩瀬　譲・栗岡　潤　2003　「如意遺跡Ⅳ」　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第285集

栗岡　潤　2000　「如意／如意南」　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第241集

山本　禎　2001　「如意遺跡」　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第264集

山本　禎・岩瀬　譲　2002　「如意Ⅲ／川端」　埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第276集

渡辺　一　1990　「鳩山窯跡群」Ⅱ　鳩山窯跡群遺跡調査会

写真図版

如意南遺跡第２次調査区全景

如意南遺跡第２次調査区全景

第１号住居跡カマド

第１号住居跡

第２号住居跡カマド

第２号住居跡

第 3 号住居跡

第 4 号住居跡

第５号住居跡カマドＡ遺物出土状況

第５号住居跡カマドＡ遺物出土状況

第５号住居跡カマドＡ

第５号住居跡カマドＡ

第５号住居跡カマドB

第５号住居跡カマドB

第５号住居跡貯蔵穴遺物出土状況

第６号住居跡カマドＡ遺物出土状況

第６号住居跡カマドＡ煙突部遺物出土状況

第６号住居跡カマドＡ

第６号住居跡カマドＡ・Ｂ

第７号住居跡カマド

第5・6・7号住居跡

第5・6・7号住居跡

第８号住居跡カマドＡ

第８号住居跡カマドＢ遺物出土状況

第８号住居跡カマドＢ

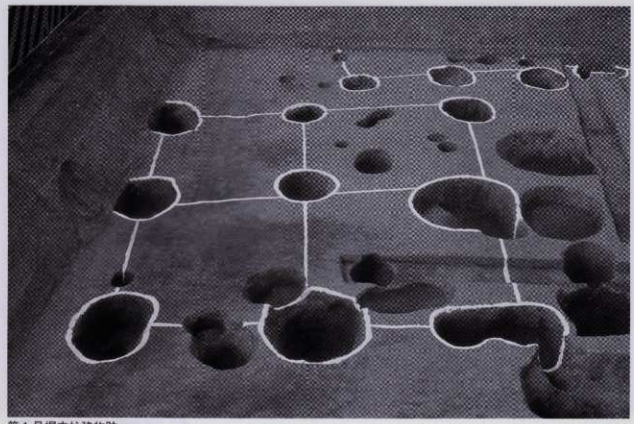
第８号住居跡

第９号住居跡

第９号住居跡カマド遺物出土状況

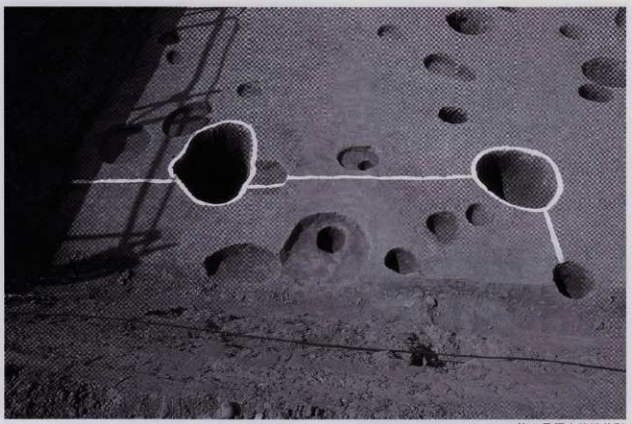
第９号住居跡カマド遺物出土状況

第10号住居跡



第１号掘立柱建物跡

第２・３号掘立柱建物跡



第 4 号掘立柱建物跡

第33号土坑

第５号住居跡　第13図１

第５号住居跡　第13図２

第５号住居跡　第13図３

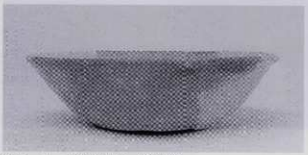
第６号住居跡　第16図１

第６号住居跡　第16図４

第６・７号住居跡　第19図１

第６・７号住居跡　第19図２

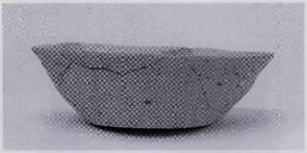
第６・７号住居跡　第19図３



第５・６・７号住居跡　第20図１

第８号住居跡　第22図２

第８号住居跡　第22図４



第８号住居跡　第22図５

第８号住居跡　第22図６

第８号住居跡　第22図９

第９号住居跡　第24図９

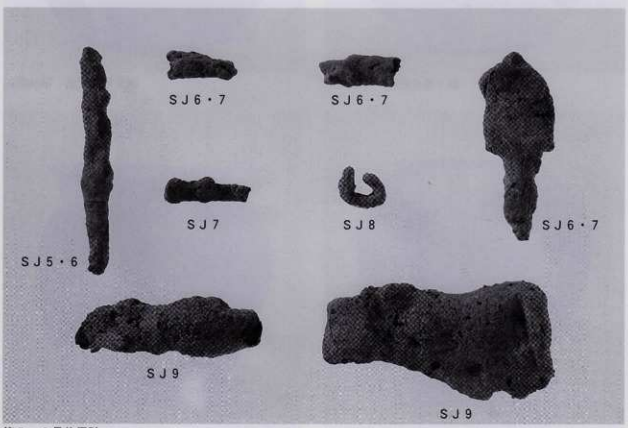
第９号住居跡　第24図10

第５号住居跡　第13図11

第９号住居跡　第25図21

第９号住居跡　第24図19

第９号住居跡　第24図20



第５～９号住居跡

報告書抄録

ふりがな	にょいみなみ いせき
書名	如意南遺跡Ⅱ
副書名	木島揚水機場建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告
巻次	
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第294集
著者氏名	山本 禎
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369－0108 埼玉県大里郡大里町船木台4－4－1 TEL 0493－39－3955
発行年月日	西暦2004（平成16）年3月24日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
如意南遺跡（にょいみなみいせき）	埼玉県大里郡川本町大字畠山字如意451他（さいたまけんおおさとぐんかわもとまちおはあざはたけやまあざにょい ばん）	11406	181	36°7′33″	139°16′21″	20020722～20020930	655	農業関係事業

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
如意南遺跡	集落跡	古墳時代後期 奈良時代 平安時代	竪穴住居跡 1軒 竪穴住居跡 1軒 竪穴住居跡 8軒 掘立柱建物跡 4棟 土坑 60基	土師器・須恵器・鉄製品	

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第294集

大里郡川本町

如意南遺跡Ⅱ

本畠揚水機場建設用地内
埋蔵文化財発掘調査報告

平成16年3月17日　印刷
平成16年3月24日　発行

発行／財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県大里郡大里町船木台4－4－1
電話　0493（39）3955

印刷／巧和工芸印刷株式会社